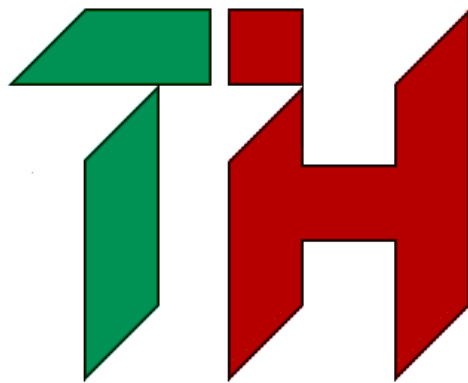


令和元年度  
情報公開資料



学校法人伊東学園

テクノ・ホルティ園芸専門学校

## ① 学校の概要、目標及び計画

### ●学校の教育・人材養成の目標及び教育指導計画、経営方針、特色

#### 建学の精神

若い人たちの夢や希望の実現を手伝うこと

そのために多くの挑戦や失敗を恐れずに経験させ、そこから何らかを学び取ることで感性を磨き、ひいては自信と誇りを持って豊かな社会づくりに貢献できる人材を養成する

#### 教育方針

- ・園芸業界の即戦力、その道のプロフェッショナルとして力を発揮できる人材を養成する
- ・栽培から流通・販売まで、また造園やデザインなども含めてバランスの取れた専門教育を行う
- ・理論の学習だけでなく、実習を通して技術の習熟を図る
- ・多方面に関連する園芸業界の状況に対応できるように、関連分野の教育も行う
- ・発展し変化する園芸業界の現状をふまえて、柔軟に対応できる人材を養成する
- ・社会人にふさわしいマナーや人間性を養成する
- ・若い人の持つ夢や目標を大切にし、その可能性を引き出して育てる教育を行う
- ・就職を共に考え、卒業後は同窓会組織などを通じて応援する

### ●校長名、所在地、連絡先等

法人名 学校法人伊東学園

校長 伊東政信

所在地 埼玉県行田市埼玉 4758 番地 1 (〒 361-0025)

連絡先 電話 048-559-1187 Fax 048-559-1189

メール [saitama-th@ito.ac.jp](mailto:saitama-th@ito.ac.jp)

ホームページ [www.ito.ac.jp](http://www.ito.ac.jp)

### ●学校の沿革、歴史、学生の出展・受賞歴

昭和 27 年	学園の前身である神田予備校創立 (東京都知事認可・各種学校)
昭和 49 年	学校法人の認可を受け学校法人伊東学園を創立
昭和 63 年	テクノ・ホルティ園芸専門学校開校 (埼玉県知事認可・専修学校、昼間部、2 年制、学年定員 80 名)
平成 1 年	文部省より職業教育高度化開発研究事業の委託を受ける (3 年間) 文部省主催、全国農業高等学校長協会の委託により高等学校産業教育実技講習会を実施
平成 2 年	国際花と緑の博覧会に「花と動物たちのふるさと」を出展。優秀賞・金賞を受賞
平成 4 年	ジャパン フラワー フェスティバルに出展。金賞を受賞 全国造園建設業協会主催の全国デザインコンクールに 2 名入選 文部省より職業教育高度化開発研究事業の委託を受ける (2 回目、3 年間)
平成 8 年	(社) 園芸文化協会主催の文化展にコンテナガーデンを出展。文部大臣賞を受賞 農林水産省の委託により就農準備教育を実施 (平成 15 年まで)
平成 9 年	アメリカ・フィラデルフィア・フラワーショウに日本庭園を出展。銀賞を受賞 文部省より、職業教育高度化開発研究事業の委託を受ける 造園 CAD システムの操作、造園用小型土木機械操作、熱帯植物栽培マニュアルの研究を行う 同じく、職業人再教育推進事業の委託を受ける ガーデナー養成講座を実施。新植木職・ガーデナー養成マニュアルを作成 高校生フラワーデザイン・園芸装飾コンテストを開催 (平成 19 年まで)
平成 10 年	東京テクノ・ホルティ園芸専門学校開校 (東京・御茶ノ水) 技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において銀賞 1 を受賞 (宇都宮) (社) 日本家庭園芸普及協会より出展作品に関する感謝状を受領

平成 11 年	タイ国ラヨン県に熱帯植物栽培実習センターを開所 技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において金賞 1・銀賞 1・銅賞 1、敢闘賞 2 を受賞（静岡大会） 文部省の委託によりチャイルドスクールを実施（以降、自主開催を含めて平成 22 年まで実施） （社）日本フラワーデザイナー協会より資格試験の普及に関する感謝状を受領
平成 12 年	タイ国文部省よりラヨン熱帯植物栽培学校が設置認可を受ける 技能五輪全国大会・造園部門において銀賞 2、フラワー装飾部門において銅賞 1、敢闘賞 3 を受賞（埼玉大会）
平成 13 年	技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において銀賞 1、銅賞 1、敢闘賞 2 を受賞（福島大会） 静岡国際園芸博覧会に出展。最優秀賞、優秀賞を受賞 ジャパン フラワー フェスティバル（JFF）・フラワーアレンジ部門に出展。金賞を受賞 ジャパン ガーデニング フェアに出展。優秀賞を受賞
平成 14 年	世界らん展日本大賞 フラワーデザイン審査部門ブーケの部に出展。優秀賞を受賞 技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において銅賞 1 を受賞（熊本大会） JFF 金賞受賞者が国際園芸博覧会の日本政府出展会場にオリジナル作品を展示 文部科学省委託 産学連携による専修学校高度職業人育成総合プロジェクトを実施 同じく、専修学校キャリアアップ教育推進事業を実施
平成 15 年	技能五輪全国大会・造園部門において敢闘賞 2、フラワー装飾部門において敢闘賞 1 を受賞（新潟大会） 全国造園デザインコンクール大学生の部 作品・実習部門で入選 1、児童公園部門で佳作 1 を受賞 （社）全国学校農場協会主催の農業実験実習講習会を実施（フラワーデザイン、園芸療法） 文部科学省委託 専修学校先進的教育研究開発事業、キャリアアップ教育推進事業を実施 農林水産省の委託により新 IJU ターン就農促進対策事業を実施 中央職業能力開発協会より職業能力開発に関する感謝状を受領
平成 16 年	技能五輪全国大会・造園部門において敢闘賞 1、フラワー装飾部門において敢闘賞 1 を受賞（岩手大会） 埼玉県知事上田清司氏より屋上緑化フェアの協力に関する感謝状を受領 同じく、彩の国 5 つのふれあい県民運動への取り組みに関する表彰状を受領
平成 17 年	ウィム・ハゼラー・トロフィーを開催 技能五輪全国大会・造園部門において敢闘賞 1 を受賞（山口大会） 花園フラワーショーのフラワー装飾、インドアグリーン、造園等各部門でグランプリ、金賞、銀賞他を受賞 厚生労働大臣より技能検定への協力に関する感謝状を受領
平成 18 年	日比谷公園ガーデニングショー・ベランダガーデン部門に出品。金賞および来場者人気投票 1 位を受賞
平成 19 年	ジャパン フラワー フェスティバルに出品。金賞を受賞
平成 21 年	厚生労働省が提唱する失業者のための職業訓練を実施（平成 27 年度まで） 農林水産省の委託による就農準備教育、最終年度
平成 22 年	世界らん展日本大賞 フラワーデザイン審査部門に出展。トロフィー賞を受賞 技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において銀賞 1 を受賞（神奈川大会） 文花祭に行田市教育委員会の後援を得る（以降、毎年）
平成 23 年	東日本大地震が発生。汚泥清掃・花壇制作ボランティアに計 4 回参加（行田市主催） 技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において敢闘賞 2 つを受賞（静岡大会）
平成 25 年	技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において銀賞 2、敢闘賞 1 を受賞（千葉大会） 全国障害者技能競技大会（アビリンピック）・フラワーデザイン部門で金賞 1 を受賞
平成 26 年	技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において金賞 1、銀賞 1、敢闘賞 1 を受賞（愛知大会） 深谷花フェスタ・コンテナガーデン部門で最優秀賞・埼玉県知事賞を受賞 埼玉県の委託により小学生対象のフラワーデザイン教室「夢のかけ橋」を実施（以降、毎年）
平成 27 年	第 43 回技能五輪国際大会 World Skills（ブラジル大会）フラワー装飾部門へ埼玉校研修生が出場 フラワーデザインの花材用テキスト「花屋さんの花事典」（ナツメ社）を監修・出版
平成 28 年	技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において銀賞 1、敢闘賞 2 を受賞（山形大会）
平成 29 年	技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において銀賞 1、銅賞 1、敢闘賞 1 を受賞（栃木大会） 埼玉県職業能力開発協会より技能五輪全国大会への協力に関する感謝状を受領 全国農業会議所より農業次世代人材投資事業（準備型）の全国教育機関として認定され、 農業次世代人材投資事業に応募した 6 名全員への交付が決定
平成 30 年	開校 30 周年記念同窓会を開催 技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において金賞 1、銀賞 1 を受賞（沖縄大会） 金賞受賞者は、技能五輪国際大会（2019 年 8 月ロシア・カザン）に出場予定 職業実践専門課程の認定を受ける（園芸 1 類学科）
平成 31 年	農業における生産工程管理（埼玉県版 S-GAP）の認証を受ける（栽培品目コマツナ）

② 各学科（コース）等の教育

●入学者に関する受入れ方針及び入学者数、収容定員、在学学生数

次に例示する素養を持った人物を、募集要項に基づいて募集している。

（この際、出願前に来校するなどして、本校に対する理解を深めることを求めている）

- ・花や緑の持つ素晴らしさを楽しむことができる人
- ・花と緑の素晴らしさを人々に知らせることを望む人
- ・花と緑を使って人に安らぎや癒しを与えることを望む人 など

農業専門課程、園芸1類学科、2年制課程、

募集定員：令和元年度 80名、平成30 - 29年度 100名

収容定員：令和元年度 180名、平成30 - 29年度 200名

学科・コース・専攻	令和元年度		平成30年度			平成29年度		
	入学	在籍	入学	在籍	退学	入学	在籍	退学
園芸1類学科	41名		40名		4名	52名		3名
花と野菜の農業ビジネスコース								
花き園芸専攻 ※		6名		13名			23名	
野菜生産専攻 ※		5名		10名			13名	
フラワーデザインコース ※		18名		41名	2名		38名	
造園・環境緑化コース ※		5名		25名			26名	
花き生産コース *		4名						
野菜生産コース *		3名						
グリーンコーディネートコース *		11名						
フラワーコーディネートコース *		18名						
造園コース *		5名						

在籍者数は各年度5月1日時点。

令和元年度の人数は、※印は2年生、\*印は1年生。他は1・2年生の合計。

但し、コースへ所属する時期は1年次の後期からであるため、入学時の希望による。

退学者数は、学年を問わず年度を通じて退学した人数を記し、前期に退学した者はコースでの退学者として記していない。

●カリキュラム

教育目標（育て上げようとする人物像）

- ・企業から喜んで迎え入れてもらえる人材
- ・花と緑を通じて人に豊かな気持ちや安らぎ、心地良い環境を提供できる即戦力たる人材
- ・働くことに夢と誇り、やりがいを感じることでできる人材
- ・常に向上心と自らの目標に関する事柄に興味・関心を持ち、創意工夫と努力を怠らない人材
- ・将来のオーナーやデザイナー、第一線で活躍を目指そうとする人材

<カリキュラム・科目表：平成30年度入学生用>

授業科目等の概要															
(農業専門課程 園芸1類学科 花と野菜の農業ビジネスコース 花き園芸専攻) 平成30年度															
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○				園芸文化論	西欧と日本の園芸を媒体とした歴史、生活文化について学習する。	1 前	30	1	○		○			○	
○				花と緑の商品知識	鉢花、切花、樹木といった園芸や造園に利用する素材について、名称・管理方法などについて学習する。	1 2 通 前	90	3	○		○			○	
○				分類・形態学	園芸植物の分類や形態について学習する。	1 前	15	0.5	○		○			○	
○				土壌肥料学	土壌や肥料の基礎や土壌改良法、施肥法などについて学習する。	1 前	15	0.5	○	△	○		○		
○				病理害虫学	植物に関わる病気、害虫、その対処法などについて学習する。	1 前	15	0.5	○		○			○	
○				植物生理学	植物ホルモンや光形態形成などを学習する。	1 前	30	1	○	△	○		○	○	
○				園芸実習	花壇作成や植物の管理方法など農場での実習を行う。	1 前	150	5	△		○	○	○	○	
○				育種・繁殖	植物の育種や繁殖方法、バイオテクノロジーの基礎について学習する。	1 前	30	1	△		○		○	○	
○				グリーンコーディネート	観葉植物の扱いやそれらを用いた装飾法について学習する。	1 前	30	1	△		○	○	○	○	
○				ビジネスマナー	ビジネスマナーや履歴書の書き方、社会人基礎力等を習得する。	1 前	60	2	○	△		○	○		
○				園芸流通	園芸業界の現状を実際の例に触れながら学習する。	1 前	30	1	○		○		○	○	
○				デザイン	デザインの構成について学習し、図面上での造形について理解させる。	1 前	30	1	△		○	○	○	○	
○				フラワーデザイン基礎	フラワーデザインの基礎を学習する。	1 前	30	1	△		○	○		○	
○				カラーコーディネート	色彩に関する基本的な知識や配色技法を学習する。	1 前	15	0.5	○	△	○			○	
○				造園基礎	造園史、日本庭園、西洋庭園の様式や特徴、造園材料や観察を通じて樹木の知識などを習得する。	1 前	30	1	△		○	○		○	
○				園芸基礎	寄せ植え、花壇作成などを通じて様々な園芸作業を学習する。	1 前	60	2	△		○	○	○	○	
○				花き生産技術Ⅰ	一、二年性植物の栽培方法や管理技術を学習する。	1 通	105	3.5	△		○	○	○	○	
○				花き生産技術Ⅱ	多年性植物の栽培方法や管理技術を学習する。	1 通	90	3	△		○	○	○	○	
○				花き生産技術Ⅲ	観葉植物、多肉植物等の栽培・管理方法を学習する。	1 通	75	2.5	△		○	○	○	○	
○				商品制作	植物を使用した商品の制作について学習する。	1 通	60	2	△		○	○	○	○	
○				販売流通	生産物の出荷、流通の仕組みを学習する。	1 通	30	1	△		○	○	○	○	
○				施設管理	温室などの農場の施設設備の管理技術を学習する。	1 通	45	1.5	△		○	○	○	○	
○				園芸装飾	室内や屋外での効果的な園芸装飾技術を習得する。	1 通	90	3	△		○	○	○	○	
○				園芸装飾実践	イベントへの出展などを通じて、現場に即した園芸装飾技術を学習する。	2 通	60	2	△		○	○	○	○	
○				切り花の利用	切り花を用いた作品の制作技術を学習する。	2 通	30	1	△		○	○		○	
○				販売促進	POP広告や陳列などの販売促進について学習する。	2 通	15	0.5	△		○	○	○	○	
○				花き育種・繁殖	花きについての品種動向や育種、繁殖技術について学習する。	2 通	30	1	○	△	○	○	○	○	
○				生育開花概論	花きにおける開花調整の手法を学習する。	2 通	15	0.5	○	△	○	○	○	○	
○				農業機械	トラクターや動力噴霧器などの農業機械の扱いについて学習する。	2 通	15	0.5	△		○	○	○	○	
○				経営管理学	農業の運営にかかわるマネジメントの手法について学習する。	2 通	15	0.5	△		○	○	○	○	
○				園芸指導技術	園芸指導に関わる知識・技術を習得する。	2 通	30	1	△		○	○	○	○	
○				園芸療法・福祉概論	園芸療法・福祉に関する基本的な知識を学習する。	2 通	15	0.5	○	△	○		○	○	
○				野菜生産基礎	野菜の基本的な栽培技術について学習する。	2 通	30	1	△		○	○	○	○	
○				課題学習	学生各自がテーマを決めて学習する。	1 通	15	0.5	△	○		○	○	○	
○				校外見学	花きに関する施設を見学する。	1 通	30	1			○		○	○	
○				インターンシップ	園芸業界での現場体験を行う。	1 通	120	4			○	○	○	○	
○				卒業研究	各自がテーマを設定し、一定期間計画的に調査・研究し、自己の専門性を高めるとともに、物事を客観的・論理的に展開する力を習得させる。また、調査・研究の過程において文献・資料の収集力・分析力を養う。	2 通	240	8	△	○	△	○		○	
○				校外研修	海外研修や校外での研修を行う。	2 通	60	2			○		○	○	
○				管理実習	夏季休業中などに校内の植物の管理作業を行う。	1 通	120	4			○	○	○	○	
○				校内行事	文化祭などの校内行事への取り組みを通じて、計画から完成までの一連の流れを習得する。	1 2 通 通	240	8			○	○	○	○	
	○			選択	希望に応じて生け花、盆栽、野菜などから60単位時間以上(年次ごとに30単位時間以上)選択する。	1 2 後 後	60	2	△		○	○	○	○	
		○		資格取得	園芸装飾技能士、造園技能士、フラワー装飾技能士、商品装飾展示技能士など、希望する資格に応じ120単位時間以上(年次ごとに60単位時間以上)選択し、資格試験を受験する上で必要な知識、技術を習得する。	1 2 通 通	120	4	△	△	○	○	○	○	
合計					42科目	2,415単位時間(80.5単位)									
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
各学期毎に履修した科目について定期試験を実施する。定期試験において合格すると単位認定される。必修科目は全て、選択必修科目は年次ごとに所定の単位時間以上認定され、1年次では1,185単位時間以上、2年次では1,230単位時間以上(2年間で2,415単位時間以上)認定されることが卒業要件となる。								1学年の学期区分		2期					
								1学期の授業期間		15週					
(留意事項)															
1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。															
2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。															

授業科目等の概要

(農業専門課程 園芸1類学科 花と野菜の農業ビジネスコース 野菜生産専攻) 平成30年度

分類	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択	授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
									講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○				園芸文化論	西欧と日本の園芸を媒体とした歴史、生活文化について学習する。	1 前	30	1	○			○			○	
○				野菜生産各論	各種野菜の分類、作型、栽培、管理方法について学習する。	1 前	90	3	○	△		○		○		
○				分類・形態学	園芸植物の分類や形態について学習する。	1 前	15	0.5	○			○			○	
○				土壌肥料学	土壌や肥料の基礎や土壌改良法、施肥法などについて学習する。	1 前	15	0.5	○	△		○		○		
○				病理害虫学	植物に関わる病気、害虫、その対処法などについて学習する。	1 前	15	0.5	○			○			○	
○				植物生理学	植物ホルモンや光形態形成などを学習する。	1 前	30	1	○		△	○		○		
○				園芸実習	花壇作成や植物の管理方法など農場での実習を行う。	1 前	150	5	△			○	○	○	○	
○				育種・繁殖	植物の育種や繁殖方法、バイオテクノロジーの基礎について学習する。	1 前	30	1	△			○		○	○	
○				グリーンコーディネート	観葉植物の扱いやそれらを用いた装飾法について学習する。	1 前	30	1	△		○	○		○	○	○
○				ビジネスマナー	ビジネスマナーや履歴書の書き方、社会人基礎力等を習得する。	1 前	60	2	○	△		○		○		
○				園芸流通	園芸業界の現状を実際の例に触れながら学習する。	1 前	30	1	○			○		○	○	
○				デザイン	デザインの構成について学習し、図面上での造形について理解させる。	1 前	30	1	△		○	○				○
○				フラワーデザイン基礎	フラワーデザインの基礎を学習する。	1 前	30	1	△		○	○				○
○				カラーコーディネート	色彩に関する基本的な知識や配色技法を学習する。	1 前	15	0.5	○		△	○				○
○				造園基礎	造園史、日本庭園、西洋庭園の様式や特徴、造園材料や観察を通じて樹木の知識などを習得する。	1 前	30	1	△		○	○				○
○				野菜生産Ⅰ	主に露地栽培の野菜生産について学習する。	1 通	180	6	△		○	○		○		
○				野菜生産Ⅱ	主に施設栽培の野菜生産について学習する。	1 通	270	9	△		○	○		○		
○				野菜生産Ⅲ	植物工場などの次世代農業について学習する。	1 通	45	1.5	△		○	○		○		
○				販売技術	野菜の販売を行う上での調整、販売方法を学習する。	1 通	30	1	△		○	○		○		
○				野菜育種・繁殖	野菜についての品種動向や育種、繁殖技術について学習する。	1 通	60	2	△		○	○		○		
○				野菜加工論	安全衛生を含めた野菜の加工方法について学習する。	1 通	30	1	○			○		○		
○				野菜加工実習	漬物や干し野菜などの加工を行う。	1 通	45	1.5			○	○		○		
○				調理実習	野菜の特性を生かした調理方法を学習する。	1 通	30	1			○		○		○	
○				農業機械	トラクターや動力噴霧器などの農業機械の扱いについて学習する。	1 通	30	1	△		○	○	○	○	○	
○				経営管理学	農業の運営にかかわるマネジメントの手法について学習する。	1 通	75	2.5	○	△		○		○	○	
○				野菜栄養学	野菜の栄養価について学習する。	2 通	45	1.5	○			○		○	○	
○				施設管理	温室などの農場の施設設備の管理技術を学習する。	2 通	15	0.5	△		○		○		○	
○				野菜栽培指導法	園芸教室や家庭菜園、市民農園などでの指導法について学習する。	2 通	30	1	○		△	○		○	○	
○				課題学習	学生各自がテーマを決めて学習する。	1 後	15	0.5	△	○		○		○	○	
○				校外見学	野菜生産に関する施設を見学する。	1 通	30	1			○		○	○	○	
○				インターンシップ	園芸業界での現場体験を行う。	1 通	120	4			○		○	○	○	○
○				卒業研究	各自がテーマを設定し、一定期間計画的に調査・研究し、自己の専門性を高めるとともに、物事を客観的・論理的に展開する力を習得させる。また、調査・研究の過程において文献・資料の収集力・分析力を養う。	2 通	240	8	△	○	△	○		○		
○				校外研修	海外研修や校外での研修を行う。	2 通	60	2			○		○		○	○
○				管理実習	夏季休業中などに校内の植物の管理作業を行う。	1 通	120	4			○	○		○		
○				校内行事	文化祭などの校内行事への取り組みを通じて、計画から完成までの一連の流れを習得する。	1 2 通 通	240	8			○	○		○		
		○		選択	希望に応じて生け花、盆栽、野菜などから60単位時間以上(年次ごとに30単位時間以上)選択する。	1 2 後	60	2	△		○	○		○	○	
		○		資格取得	園芸装飾技能士、造園技能士、フラワー装飾技能士、商品装飾展示技能士など、希望する資格に応じ120単位時間以上(年次ごとに60単位時間以上)選択し、資格試験を受験する上で必要な知識、技術を習得する。	1 2 通 通	120	4	△	△	○	○		○	○	○
合計					37科目	2,490単位時間( 83 単位)										

卒業要件及び履修方法

授業期間等

各学期毎に履修した科目について定期試験を実施する。定期試験において合格すると単位認定される。必修科目は全て、選択必修科目は年次ごとに所定の単位時間以上認定され、1年次では1,200単位時間以上、2年次では1,290単位時間以上(2年間で2,490単位時間以上)認定されることが卒業要件となる。

1学年の学期区分	2期
1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(農業専門課程 園芸1類学科 フラワーデザインコース) 平成30年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			園芸文化論	西欧と日本の園芸を媒体とした歴史、生活文化について学習する。	1 前	30	1	○			○			
○			花と緑の商品知識	鉢花、切花、樹木といった園芸や造園に利用する素材について、名称・管理方法などについて学習する。	1 2 通 前	90	3	○			○			
○			分類・形態学	園芸植物の分類や形態について学習する。	1 前	15	0.5	○			○			
○			土壌肥料学	土壌や肥料の基礎や土壌改良法、施肥法などについて学習する。	1 前	15	0.5	○	△	○		○		
○			病理害虫学	植物に関わる病気、害虫、その対処法などについて学習する。	1 前	15	0.5	○			○			
○			植物生理学	植物ホルモンや光形態形成などを学習する。	1 前	30	1	○	△	○		○		
○			園芸実習	花壇作成や植物の管理方法など農場での実習を行う。	1 前	150	5	△		○	○	○	○	
○			育種・繁殖	植物の育種や繁殖方法、バイオテクノロジーの基礎について学習する。	1 前	30	1	△			○	○	○	
○			グリーンコーディネート	観葉植物の扱いやそれらを用いた装飾法について学習する。	1 前	30	1	△		○	○	○	○	○
○			ビジネスマナー	ビジネスマナーや冠婚葬祭、履歴書の書き方、社会人基礎力等を習得する。	1 2 通 通	105	3.5	○	△			○		
○			園芸流通	園芸業界の現状を実際の例に触れながら学習する。	1 前	30	1	○			○		○	
○			フラワーデザイン基礎Ⅰ	フラワーデザインの基礎を学習する。	1 前	30	1	△		○	○		○	
○			デザイン	デザインの構成について学習し、図面上での造形について理解させる。	1 前	30	1	△		○	○		○	
○			カラーコーディネート	色彩に関する基本的な知識や配色技法を学習し、応用としてアレンジメント等を作成する。	1 2 前 通	45	1.5	○		△	○		○	
○			造園基礎	造園史、日本庭園、西洋庭園の様式や特徴、造園材料や観察を通じて樹木の知識などを習得する。	1 前	30	1	△		○	○		○	
○			フラワーデザイン基礎Ⅱ	スタンド花などの実際に商品として通用する作品の制作技術を習得する。	1 通	60	2	△		○	○	○	○	
○			フラワーデザイン応用	ヨーロッパスタイルなど基礎を基にした様々な作品制作技術を習得する。	2 通	180	6	△		○	○		○	
○			フラワーデザイン実践Ⅰ	いろいろなスタイルのアレンジメントや花束の制作技術を習得する。	1 後	60	2	△		○	○	○	○	○
○			フラワーデザイン実践Ⅱ	イベントや学校外での装飾技術を計画から作成まで一連の流れを通して学習する。	2 通	60	2	△		○	○		○	○
○			商品知識	切り花や鉢物の商品知識を学習する。	1 通	75	2.5	△		○	○		○	
○			ショップビジネス	店舗運営に関する知識、技術(接客、陳列、経営など)を実習を交えながら習得する。	1 2 後 通	120	4	△		○	○		○	
○			商品企画制作	母の日やクリスマス等イベント時の商品制作について計画から学習する。	1 通	150	5	△	○	△	○		○	
○			空間装飾	広い空間での植物を使用した装飾技術を習得する。	1 通	165	5.5	△		○	○		○	
○			ブライダルフラワー	ブーケや卓上装花などのブライダル関連の商品制作やマナーについて学習する。	1 2 後 通	75	2.5	△		○	○	○		
○			フェーナルフラワー	祭壇などの葬儀関連の商品制作やマナーについて学習する。	2 通	30	1	△		○	○	○		
○			課題学習	学生各自がテーマを決めて学習する。	1 後	15	0.5	△	○		○		○	
○			校外見学	フラワーデザイン関連に関する施設を見学する。	1 通	45	1.5			○	○	○	○	
○			インターンシップ	園芸業界での現場体験を行う。	1 通	120	4			○	○		○	○
○			校外研修	海外研修や校外での研修を行う。	2 通	60	2			○	○		○	○
○			管理実習	夏季休業中などに校内の植物の管理作業を行う。	1 通	120	4			○	○		○	
○			校内行事	文化祭などの校内行事への取り組みを通じて、計画から完成までの一連の流れを習得する。	1 2 通 通	240	8			○	○		○	
	○		選択	希望に応じて生け花、盆栽、野菜などから60単位時間以上(年次ごとに30単位時間以上)選択する。	1 2 後 後	60	2	△		○	○		○	
		○	資格取得	園芸装飾技能士、造園技能士、フラワー装飾技能士、商品装飾展示技能士など、希望する資格に応じ120単位時間以上(年次ごとに60単位時間以上)選択し、資格試験を受験する上で必要な知識、技術を習得する。	1 2 通 通	120	4	△	△	○	○		○	○
<b>合計</b>				<b>33科目</b>		<b>2430単位時間( 81 単位)</b>								
<b>卒業要件及び履修方法</b>								<b>授業期間等</b>						
各学期毎に履修した科目について定期試験を実施する。定期試験において合格すると単位認定される。必修科目は全て、選択必修科目は年次ごとに所定の単位時間以上認定され、1年次では1,200単位時間以上、2年次では1,230単位時間以上(2年間で2,430単位時間以上)認定されることが卒業要件となる。								1学年の学期区分			2期			
								1学期の授業期間			15週			
(留意事項)														
1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。														
2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。														

授業科目等の概要

(農業専門課程園芸1類学科造園・環境緑化コース)平成30年度

分類	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択	授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 の 連 携
									講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
	○			園芸文化論	西欧と日本の園芸を媒体とした歴史、生活文化について学習する。	1 前	30	1	○			○			○	
	○			花と緑の商品知識	鉢花、切花、樹木といった園芸や造園に利用する素材について、名称・管理方法などについて学習する。	1 2 通 前	90	3	○		△	○		○		
	○			分類・形態学	園芸植物の分類や形態について学習する。	1 前	15	0.5	○			○			○	
	○			土壌肥科学	土壌や肥料の基礎や土壌改良法、施肥法などについて学習する。	1 前	15	0.5	○		△	○		○		
	○			病理害虫学	植物に関わる病気、害虫、その対処法などについて学習する。	1 前	15	0.5	○			○			○	
	○			植物生理学	植物ホルモンや光形態形成などを学習する。	1 前	30	1	○		△	○		○		
	○			園芸実習	花壇作成や植物の管理方法など農場での実習を行う。	1 前	150	5	△		○	○		○	○	
	○			育種・繁殖	植物の育種や繁殖方法、バイオテクノロジーの基礎について学習する。	1 前	30	1	△			○		○	○	
	○			グリーンコーディネート	観葉植物の扱いやそれらを用いた装飾法について学習する。	1 前	30	1	△			○		○	○	○
	○			ビジネスマナー	ビジネスマナーや履歴書の書き方、社会人基礎力等を習得する。	1 通	60	2	○	△		○		○		
	○			園芸流通	園芸業界の現状を実際の例に触れながら学習する。	1 前	30	1	○			○		○	○	
	○			デザイン	デザインの構成について学習し、図面上での造形について理解させる。	1 前	30	1	△		○	○			○	
	○			フラワーデザイン基礎	フラワーデザインの基礎を学習する。	1 前	30	1	△		○	○			○	
	○			カラーコーディネート	色彩に関する基本的な知識や配色技法を学習する。	1 前	15	0.5	○		△	○			○	
	○			造園基礎技術	造園に関わる基本的な技術を学習する。	1 前	30	1	△		○	○		○		
	○			造園概論	造園史、日本庭園、西洋庭園の様式や特徴などを学習する。	1 前	30	1	○			○		○		
	○			造園計画	図面の描き方、記号の表記方法、道具の使用方法、図面の読み取り方法等について学習する。	1 後	90	3	○		△	○		○		
	○			造園施工	造園施工の基礎から応用までに必要な知識、技術を学習する。	1 通	240	8				○	○	○	○	
	○			造園管理	施工を行う上での必要経費の積算方法や、病虫害防除を含めた施工後の庭園の管理について学習し、実際に管理実習も行う。	1 2 後 通	240	8	△		○	○		○	○	○
	○			樹木学	樹木の名称や、特徴、見分け方などを学習する。	1 前	60	2								
	○			装飾技術	寄せ植えなどの植物を使用した装飾技術について学習する。	1 後	30	1								
	○			造園設計	図面作成を行いながら、設計について学習する。	2 通	60	2	△	△	○	○		○		
	○			造園材料	石や砂、竹、芝など造園に必要な材料の知識とそれらの扱いについて学習する。	2 通	60	2	△		○	○		○		
	○			環境緑化	都市緑化や生態系など造園に関わる環境や緑化技術について実習や調査を交えながら学習する。	2 通	45	1.5	△		○	○		○	○	○
	○			フィールドワーク	実際に校外での観察を行い、自然環境での植生や生態系について学習する。	2 通	45	1.5			○		○		○	
	○			測量	平板測量やトランシットについて学習する。	2 前	60	2	△	△	○	○			○	
	○			課題学習	学生各自がテーマを決めて学習する。	1 通	150	5	△	○		○		○	○	
	○			インターンシップ	造園業界での現場体験を行う。	1 通	120	4			○	○		○	○	○
	○			校外研修	海外研修や校外での研修を行う。	2 通	60	2			○	○		○	○	○
	○			管理実習	夏季休業中などに校内の植物の管理作業を行う。	1 通	135	4.5			○	○		○		
	○			校内行事	文化祭などの校内行事への取り組みを通じて、計画から完成までの一連の流れを習得する。	1 2 通 通	240	8			○	○		○		
		○		選択	希望に応じて生け花、盆栽、野菜などから60単位時間以上(年次ごとに30単位時間以上)選択する。	1 2 後 後	60	2	△		○	○		○	○	
			○	資格取得	園芸装飾技能士、造園技能士、フラワー装飾技能士、商品装飾展示技能士など、希望する資格に応じ120単位時間以上(年次ごとに60単位時間以上)選択し、資格試験を受験する上で必要な知識、技術を習得する。	1 2 通 通	120	4	△	△	○	○		○	○	○
合計				33科目		2,445単位時間(81.5単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
各学期毎に履修した科目について定期試験を実施する。定期試験において合格すると単位認定される。必修科目は全て、選択必修科目は年次ごとに所定の単位時間以上認定され、1年次では1,230単位時間以上、2年次では1,215単位時間以上(2年間で2,445単位時間以上)認定されることが卒業要件となる。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。



＜カリキュラム・科目表：令和元年度入学生用＞

授業科目等の概要

(農業専門課程 園芸1類学科 花き生産コース) 令和元年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	実務経験のある教員
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			園芸文化論	西欧と日本の園芸を媒体とした歴史、生活文化について学習する。	1前	30	1	○			○			○	
○			花と緑の商品知識	鉢花、切花、樹木といった園芸や造園に利用する素材について、名称・管理方法などについて学習する。	1,2通	90	3	○			○			○	
○			分類・形態学Ⅰ	園芸植物の分類や形態について基本的に学習する。	1前	15	0.5	○			○			○	
○			分類・形態学Ⅱ	園芸植物の分類や形態について応用的に学習する。	1前	15	0.5	○			○			○	
○			土壌肥科学	植物に関わる病気、害虫、その対処法などについて学習する。	1前	15	0.5	○		△	○			○	
○			病理害虫学	植物に関わる病気、害虫、その対処法などについて学習する。	1前	15	0.5	○			○			○	
○			植物生理学	植物ホルモンや光形態形成などを学習する。	1前	30	1	○		△	○			○	
○			園芸実習	花壇作成や植物の管理方法など農場での実習を行う。	1,2通	150	5	△			○	○		○	
○			育種・繁殖	植物の育種や繁殖・管理方法、バイオテクノロジーの基礎について学習する。	1前	30	1	△			○	○		○	
○			グリーンコーディネート	観葉植物の扱いやそれらを用いた装飾法について学習する。	1前	30	1	△			○	○		△	○
○			ビジネススマナー	社会人として必要なビジネススマナーや履歴書の書き方、社会人基礎力等を習得する。	1通	60	2	○	△		○				
○			園芸流通	園芸業界の現状を実際の例に触れながら学習する。	1前	30	1	○			○	○		○	
○			デザイン	デザインの構成について学習し、図面上での造形について理解させる。	1前	30	1	○	△		○			○	
○			フラワーデザイン基礎	フラワーデザインの基礎を学習する。	1前	30	1	△			○			○	
○			カラーコーディネート	色彩に関する基本的な知識や配色技法を学習する。	1前	15	0.5	○	△		○			○	
○			造園基礎	造園史、日本庭園、西洋庭園の様式や特徴、造園材料や観察を通じて樹木の知識などを習得する。	1前	30	1	△			○	○		○	
○			花き園芸基礎	寄せ植え、花壇作成、基本的な農業機械の扱いなど様々な園芸作業を学習する。	1前	60	2	△			○	○		○	
○			花き生産技術Ⅰ	一、二年性植物の栽培方法や管理技術を学習する。	1,2後	120	4	△			○	○		○	
○			花き生産技術Ⅱ	多年性植物の栽培方法や管理技術を学習する。	1,2後	120	4	△			○	○		○	
○			花き生産技術Ⅲ	観葉植物、多肉植物等の栽培・管理方法を学習する。	1,2後	90	3	△			○	○		○	
○			商品制作	植物を使用した商品の制作について学習する。	1,2後	60	2	○		△	○			○	
○			生産流通	生産物の出荷、流通の仕組みを学習する。	1,2後	45	1.5	△			○	○	○	○	
○			施設管理	温室などの農場の施設設備の管理技術を学習する。	1,2後	75	2.5	△			○	○		○	
○			花きの利用	切り花を用いた作品の制作技術を学習する。	2通	30	1	△			○	○		○	
○			販売技術	POP広告や陳列などの販売促進について学習する。	1,2後	45	1.5	△			○	○		○	
○			花き育種・繁殖	花きについての品種動向や育種、繁殖技術について学習する。	1,2後	75	2.5	○		△	○			○	
○			生育開花調節概論	花き生産における開花調整の手法を学習する。	2通	15	0.5	○			○			○	
○			花き生育技術概論	花き生産における生育調整の手法を学習する。	2通	30	1	○			○			○	
○			農業機械	トラクターや動力噴霧器などの農業機械の扱いについて学習する。	1,2後	45	1.5	△			○	○	○	○	
○			ビジネスマネジメント	農業の運営にかかわるマネジメントの手法について学習する。	2通	30	1	○			○			○	
○			園芸療法・福祉概論	園芸療法・福祉に関する基本的な知識を学習する。	2通	15	0.5	○			○			○	
○			農業簿記	農業簿記の基本的な知識を学習する。	1,2後	30	1	○			○			○	
○			花き輸出入概論	花きの輸出入に関する基本的な知識を学習する。	2通	30	1	○			○			○	
○			校外見学	花きに関する施設を見学する。	1,2後	45	1.5				○	○	○	○	
○			インターンシップ	園芸業界での現場体験を行う。	1,2後	120	4				○	○		○	
○			卒業研究	各自がテーマを設定し、一定期間計画的に調査・研究し、自己の専門性を高めるとともに、物事を客観的・論理的に展開する力を習得させる。また、調査・研究の過程において文献・資料の収集力・分析力を養う。	2通	240	8	△	○	△	○			○	
○			校外研修	海外研修や校外での研修を行う。	2通	60	2				○	○		○	
○			管理実習	夏季休業中などに校内の植物の管理作業を行う。	1,2通	120	4				○	○		○	
○			校内行事	文化祭などの校内行事への取り組みを通じて、計画から完成までの一連の流れを習得する。	1,2通	240	8				○	○		○	
	○		選択	生け花、盆栽、野菜、などから2科目以上選択する。	1,2後	60	2	△			○	○		○	△
	○		資格取得	園芸装飾・造園・フラワー装飾・商品装飾展示の各技能士など、各自が受験する資格に応じ選択し、資格試験を受験する上で必要な知識、技術を習得する。	1,2通	240	8	△	△	○	○			○	△
合計						2655	88.5								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
各学期毎に履修した科目について定期試験を実施する。定期試験において合格すると単位認定される。必修科目は全て、選択必修科目は年次ごとに所定の単位時間以上認定され、1年次では1,305単位時間以上、2年次では1,350単位時間以上(2年間で2,655単位時間以上)認定されることが卒業要件となる。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

授業科目等の概要

(農業専門課程 園芸1類学科 野菜生産コース) 令和元年度															
分類	必 選 修	選 修	自 由 選 修	授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法		場所		教員		実 務 経 験 の あ る 教 員 等 の 連 携
									講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	
○				園芸文化論	西欧と日本の園芸を媒体とした歴史、生活文化について学習する。	1 前	30	1	○		○		○		○
○				野菜生産各論	各種野菜の分類、作型、栽培、管理方法について学習する。	1 2 通前	90	3	○	△	○		○		○
○				分類・形態学	園芸植物の分類や形態について学習する。	1 前	15	0.5	○		○		○		○
○				土壌肥料学	土壌や肥料の基礎や土壌改良法、施肥法などについて学習する。	1 前	15	0.5	○	△	○		○		○
○				病理害虫学	植物に関わる病気、害虫、その対処法などについて学習する。	1 前	15	0.5	○		○		○		○
○				植物生理学	植物ホルモンや光形態形成などを学習する。	1 前	30	1	○	△	○		○		○
○				園芸実習	花壇作成や植物の管理方法など農場での実習を行う。	1 2 通前	150	5	△		○	○	○	○	○
○				育種・繁殖	植物の育種や繁殖・管理方法、バイオテクノロジーの基礎について学習する。	1 前	30	1	△		○	○	○	○	○
○				グリーンコーディネート	観葉植物の扱いやそれらを用いた装飾法について学習する。	1 前	30	1	△		○	○	△	○	○
○				ビジネスマナー	社会人として必要なビジネスマナーや履歴書の書き方、社会人基礎力等を習得する。	1 通	60	2	○	△		○	○		
○				園芸流通	園芸業界の現状を実際の例に触れながら学習する。	1 前	30	1	○		○		○	○	○
○				デザイン	デザインの構成について学習し、図面上での造形について理解させる。	1 前	30	1	○	△		○		○	○
○				フラワーデザイン基礎	フラワーデザインの基礎を学習する。	1 前	30	1	△		○	○		○	○
○				カラーコーディネート	色彩に関する基本的な知識や配色技法を学習する。	1 前	15	0.5	○	△		○		○	○
○				造園基礎	造園史、日本庭園、西洋庭園の様式や特徴、造園材料や観察を通じて樹木の知識などを習得する。	1 前	30	1	△		○	○		○	○
○				野菜生産技術Ⅰ	主に露地栽培の野菜生産について学習する。	1 2 後通	180	6	△		○	○	○		○
○				野菜生産技術Ⅱ	主に施設栽培の野菜生産について学習する。	1 2 後通	210	7	△		○	○	○		○
○				野菜生産技術Ⅲ	植物工場などの次世代農業について学習する。	1 2 後通	45	1.5	△		○	○	○		○
○				販売技術	野菜の販売を行う上での調整、販売方法を学習する。	1 2 後通	75	2.5	△		○	○	○		○
○				野菜育種・繁殖	野菜についての品種動向や育種、繁殖技術について学習する。	1 2 後通	60	2	△		○	○	○		○
○				野菜加工論	安全衛生を含めた野菜の加工方法について学習する。	1 2 後通	45	1.5	○		○		○		○
○				野菜加工実習	漬物や干し野菜などの加工を行う。	1 2 後通	45	1.5			○	○	○		○
○				調理実習	野菜の特性を生かした調理方法を学習する。	1 2 後通	30	1			○	○	○		○
○				農業機械	トラクターや動力噴霧器などの農業機械の扱いについて学習する。	1 2 後通	45	1.5	△		○	○	○	○	○
○				野菜栄養学	野菜の栄養価について学習する。	2 通	15	0.5	○		○		○		○
○				施設管理	温室などの農場の施設設備の管理技術を学習する。	2 通	15	0.5	△		○	○	○		○
○				野菜栽培指導法	園芸教室や家庭菜園、市民農園などでの指導法について学習する。	2 通	30	1	○	△	○		○	○	○
○				植物工場概論	植物工場の基本的な知識を学習する。	2 通	15	0.5	○		○		○		○
○				有機農業概論	有機農業の基本的な知識を学習する。	2 通	30	1	○	△	○		○		○
○				スマート農業	最新の機器を利用した野菜生産について学習する。	2 通	30	1	○	△	○		○		○
○				ビジネスマネジメント	農業の運営にかかわるマネジメントの手法について学習する。	1 2 後通	75	2.5	○		○		○	○	○
○				農業簿記	農業簿記の基本的な知識を学習する。	1 2 後通	30	1	○	△	○		○		○
○				農業英語	農業に関わる専門的な英語を学習する。	2 通	15	0.5	○	△	○		○		○
○				インターンシップ	園芸業界での現場体験を行う。	1 2 後通	120	4			○	○	○	○	○
○				卒業研究	各自がテーマを設定し、一定期間計画的に調査・研究し、自己の専門性を高めるとともに、物事を客観的・論理的に展開する力を習得させる。また、調査・研究の過程において文献・資料の収集力・分析力を養う。	2 通	240	8	△	○	△	○	○		○
○				校外研修	海外研修や校外での研修を行う。	2 通	60	2			○	○	○		○
○				管理実習	夏季休業中などに校内の植物の管理作業を行う。	1 2 通通	120	4			○	○	○		○
○				校内行事	文化祭などの校内行事への取り組みを通じて、計画から完成までの一連の流れを習得する。	1 2 通通	240	8			○	○	○		○
	○			選択	生け花、盆栽、野菜、などから2科目以上選択する。	1 2 後後	60	2	△		○		○	○	△
	○			資格取得	園芸装飾・造園・フラワー装飾・商品装飾展示の各技能士など、各自が受験する資格に応じ選択し、資格試験を受験する上で必要な知識、技術を習得する。	1 2 通通	240	8	△	△	○	○	○	○	△
合 計							2670	89							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
各学期毎に履修した科目について定期試験を実施する。定期試験において合格すると単位認定される。必修科目は全て、選択必修科目は年次ごとに所定の単位時間以上認定され、1年次では1,290単位時間以上、2年次では1,380単位時間以上（2年間で2,670単位時間以上）認定されることが卒業要件となる。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

授業科目等の概要

(農業専門課程 園芸1類学科 グリーンコーディネートコース) 令和元年度																	
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	実務経験のある教員
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○				園芸文化論	西欧と日本の園芸を媒体とした歴史、生活文化について学習する。	1前	30	1	○			○					
○				花と緑の商品知識	鉢花、切花、樹木といった園芸や造園に利用する素材について、名称・管理方法などについて学習する。	1 2通前	90	3	○			○					
○				分類・形態学	園芸植物の分類や形態について学習する。	1前	15	0.5	○			○					
○				土壌肥料学	土壌と肥料の基礎や土壌改良法、施肥法などについて学習する。	1前	15	0.5	○	△	○						
○				病理害虫学	植物に関わる病気、害虫、その対処法などについて学習する。	1前	15	0.5	○			○					
○				植物生理学	植物ホルモンや光形態形成などを学習する。	1前	30	1	○	△	○						
○				園芸実習	花壇作成や植物の管理方法など農場での実習を行う。	1 2通前	150	5	△	○	○			○	○		
○				育種・繁殖	植物の育種や繁殖・管理方法、バイオテクノロジーの基礎について学習する。	1前	30	1	△	○	○			○	○		
○				グリーンコーディネート	観葉植物の扱いやそれらを用いた装飾法について学習する。	1前	30	1	△	○	○			△	○	○	
○				ビジネスマナー	社会人として必要なビジネスマナーや履歴書の書き方、社会人基礎力等を習得する。	1通	60	2	○	△				○			
○				園芸流通	園芸業界の現状を実際の例に触れながら学習する。	1前	30	1	○					○	○		
○				デザイン	デザインの構成について学習し、図面上での造形について理解させる。	1前	30	1	○	△				○			
○				フラワーデザイン基礎	フラワーデザインの基礎を学習する。	1前	30	1	△	○	○				○	○	
○				カラーコーディネート	色彩に関する基本的な知識や配色技法を学習する。	1前	15	0.5	○	△					○	○	
○				造園基礎	造園史、日本庭園、西洋庭園の様式や特徴、造園材料や観察を通じて樹木の知識などを習得する。	1前	30	1	△	○	○				○	○	
○				植物管理基礎	校内で管理している見本植物を用いて、分類や管理のポイントを学習する。	1前	45	1.5	△	○	○				○	○	
○				植物管理応用	校内で管理している見本植物を用いて、分類別に維持管理と繁殖等を行う。	2通	60	2	△	○	○				○		
○				施設管理実習	植物の適切な管理を行うための温室や園場の環境整備を行う。	1 2後通	75	2.5	△	○	○				○	○	
○				グリーンサービス基礎	グリーンサービスに関わる観葉植物の扱いを学習する。	1前	30	1	△	○	○				○		
○				グリーンコーディネート論	グリーンコーディネートの歴史、現状や展望について学習する。	1後	15	0.5	○					○	○		
○				グリーンコーディネートⅡ	臨時インドアガーデン制作の一連の作業を学習する。	1 2後通	60	2	△	○	○				○	○	
○				グリーンコーディネートⅢ	ショッピングモール等の常設インドアガーデンを想定した装飾技法を学習する。	2通	60	2	△	○	○				○	○	
○				グリーンコーディネート実践	装飾作品の校内、商業施設での展示やコンテストへ出展するための一連の流れを学習する。	1 2後通	135	4.5	△	○	○				○	○	
○				環境調査	住空間に植物を配置するための環境調査について学習する。	2通	15	0.5	○	△	○				○	○	
○				特殊空間緑化	屋上緑化、屋内緑化、壁面緑化の基礎を学習する。	2通	30	1	○	△	○				○	○	
○				ガーデン設計	庭園の設計の基礎を学習する。	2通	30	1	△	○					○	○	
○				空間デザイン	住空間の特性を理解し、植物の装飾方法、メンテナンスの基礎を学習する。	2通	30	1	△	○					○	○	
○				グリーンデザイン	ガーデンの設計や施工、コンテナガーデンやハンギングバスケットの制作を学習する。	1 2後通	60	2			○	○			○	○	
○				グリーンビジネス	陳列等を含めた園芸店やガーデンセンターでの販売促進や仕入れから販売までの流れを学習する。	1 2後通	30	1	○						○	○	
○				グリーンインテリア	観葉植物を用いた商品制作やその配置について学習する。	1 2後通	60	2	○	△	○						
○				販売促進	陳列やPOPなどを中心に販売促進の基礎を学習する。	1 2後通	30	1	○						○	○	
○				植物販売管理	売り場ごとの植物管理のポイントを学習する。	1 2後通	60	2	△	○	○				○		
○				園芸指導技術	園芸講座の計画から運営までを実践的に学習する。	2通	30	1	○	△	○				○	○	
○				園芸療法・福祉	園芸療法・福祉に関する基本的な知識を学習する。	2通	30	1	○	△	○				○		
○				インターンシップ	園芸業界での現場体験を行う。	1 2後通	120	4			○		○			○	○
○				卒業研究	各自がテーマを設定し、一定期間計画的に調査・研究し、自己の専門性を高めるとともに、物事を客観的・論理的に展開する力を習得させる。また、調査・研究の過程において文献・資料の収集力・分析力を養う。	2通	210	7	△	○	△				○		
○				校外研修	海外研修や校外での研修を行う。	2通	60	2			○		○			○	○
○				管理実習	夏季休業中などに校内の植物の管理作業を行う。	1 2通通	120	4			○	○			○		
○				校内行事	文化祭などの校内行事への取り組みを通じて、計画から完成までの一連の流れを習得する。	1 2通通	240	8			○	○			○		
	○			選択	生け花、盆栽、野菜、などから2科目以上選択する。	1 2後後	60	2	△		○	○			○	○	△
	○			資格取得	園芸装飾・造園・フラワー装飾・商品装飾展示の各技能士など、各自が受験する資格に応じ選択し、資格試験を受験する上で必要な知識、技術を習得する。	1 2通通	240	8	△	△	○	○			○	○	△
合計							2535	84.5									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
各学期毎に履修した科目について定期試験を実施する。定期試験において合格すると単位認定される。必修科目は全て、選択必修科目は年次ごとに所定の単位時間以上認定され、1年次では1,245単位時間以上、2年次では1,290単位時間以上（2年間で2,535単位時間以上）認定されることが卒業要件となる。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週



授業科目等の概要

(農業専門課程 園芸1類学科 フラワーコーディネートコース) 令和元年度																	
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	実務経験のある教員
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○				園芸文化論	西欧と日本の園芸を媒体とした歴史、生活文化について学習する。	1前	30	1	○			○		○			○
○				花と緑の商品知識	鉢花、切花、樹木といった園芸や造園に利用する素材について、名称・管理方法などについて学習する。	1,2通前	90	3	○			○		○			○
○				分類・形態学	園芸植物の分類や形態について学習する。	1前	15	0.5	○			○		○			○
○				土壌肥料学	土壌や肥料の基礎や土壌改良法、施肥法などについて学習する。	1前	15	0.5	○	△		○		○			○
○				病理害虫学	植物に関わる病気、害虫、その対処法などについて学習する。	1前	15	0.5	○			○		○			○
○				植物生理学	植物ホルモンや光形態形成などを学習する。	1前	30	1	○	△		○		○			
○				園芸実習	花壇作成や植物の管理方法など農場での実習を行う。	1,2通前	150	5	△			○		○			○
○				育種・繁殖	植物の育種や繁殖・管理方法、バイオテクノロジーの基礎について学習する。	1前	30	1	△			○		○			○
○				グリーンコーディネート	観葉植物の扱いやそれらを用いた装飾法について学習する。	1前	30	1	△			○		△			○
○				ビジネスマナー	社会人として必要なビジネスマナーや冠婚葬祭、履歴書の書き方、社会人基礎力等を習得する。	1,2通通	105	3.5	○	△		○		○			○
○				園芸流通	園芸業界の現状を実際の例に触れながら学習する。	1前	30	1	○			○		○			○
○				フラワーデザイン基礎Ⅰ	フラワーデザインの基礎を学習する。	1前	30	1	△			○		○			○
○				デザイン	デザインの構成について学習し、図面上での造形について理解させる。	1前	30	1	○	△		○		○			○
○				カラーコーディネート	色彩に関する基本的な知識や配色技法を学習し、応用としてアレンジメント等を作成する。	1,2前通	45	1.5	○	△		○		○			○
○				造園基礎	造園史、日本庭園、西洋庭園の様式や特徴、造園材料や観察を通じて樹木の知識などを習得する。	1前	30	1	△			○		○			○
○				フラワーデザイン基礎Ⅱ	スタンド花などの実際に商品として通用する作品の制作技術を習得する。	1通	60	2	△			○		○			○
○				フラワーデザイン応用	ヨーロッパスタイルなど基礎を基にした様々な作品制作技術を習得する。	2通	180	6	△			○		○			○
○				フラワーデザイン実践Ⅰ	いろいろなスタイルのアレンジメントや花束の制作技術を習得する。	1後	60	2	△			○		○			○
○				フラワーデザイン実践Ⅱ	イベントや学校外での装飾技術を計画から作成まで一連の流れを通して学習する。	2通	60	2	△			○		○			○
○				商品知識	切り花や鉢物の商品知識を学習する。	1,2後通	75	2.5	△			○		○			○
○				ショップビジネス	店舗運営に関する知識、技術(接客、陳列、経営など)を実習を交えながら習得する。	1,2後通	120	4	△			○		○			○
○				商品企画制作	母の日やクリスマスなどイベント時の商品制作について計画から学習する。	1,2通	150	5	△	○	△	○		○			○
○				空間装飾	広い空間での植物を使用した装飾技術を習得する。	1,2後通	165	5.5	△			○		○			○
○				ブライダルフラワー	ブーケや卓上装花などのブライダル関連の商品制作やマナーについて学習する。	1,2後通	75	2.5	△			○		○			○
○				フェーナルフラワー	祭壇などの葬儀関連の商品制作やマナーについて学習する。	2通	30	1	△			○		○			○
○				課題学習	学生各自がテーマを決めて学習する。	1後	15	0.5	○			○		○			○
○				校外見学	フラワーデザイン関連に関する施設を見学する。	1,2通通	45	1.5				○		○			○
○				インターンシップ	園芸業界での現場体験を行う。	1,2通	120	4				○		○			○
○				校外研修	海外研修や校外での研修を行う。	2通	60	2				○		○			○
○				管理実習	夏季休業中などに校内の植物の管理作業を行う。	1,2通通	120	4				○		○			○
○				校内行事	文化祭などの校内行事への取り組みを通じて、計画から完成までの一連の流れを習得する。	1,2通通	240	8				○		○			○
○				選択	生け花、盆栽、野菜、などから2科目以上選択する。	1,2後後	60	2	△			○		○			△
○				資格取得	園芸装飾・造園・フラワー装飾・商品装飾展示の各技能士など、各自が受験する資格に応じ選択し、資格試験を受験する上で必要な知識、技術を習得する。	1,2通通	240	8	△	△	○	○		○			△
合計							2550	85									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
各学期毎に履修した科目について定期試験を実施する。定期試験において合格すると単位認定される。必修科目は全て、選択必修科目は年次ごとに所定の単位時間以上認定され、1年次では1,260単位時間以上、2年次では1,290単位時間以上(2年間で2,550単位時間以上)認定されることが卒業要件となる。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

授業科目等の概要

(農業専門課程 園芸1類学科 造園コース) 令和元年度																	
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	実務経験のある教員
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○				園芸文化論	西欧と日本の園芸を媒体とした歴史、生活文化について学習する。	1前	30	1	○			○		○			○
○				花と緑の商品知識	鉢花、切花、樹木といった園芸や造園に利用する素材について、名称・管理方法などについて学習する。	1 2通前	90	3	○			○		○			○
○				分類・形態学	園芸植物の分類や形態について学習する。	1前	15	0.5	○			○		○			○
○				土壌肥料学	土壌や肥料の基礎や土壌改良法、施肥法などについて学習する。	1前	15	0.5	○	△		○		○			○
○				病理害虫学	植物に関わる病気、害虫、その対処法などについて学習する。	1前	15	0.5	○			○		○			○
○				植物生理学	植物ホルモンや光形態形成などを学習する。	1前	30	1	○	△		○		○			
○				園芸実習	花壇作成や植物の管理方法など農場での実習を行う。	1 2通前	150	5	△		○	○		○	○		○
○				育種・繁殖	植物の育種や繁殖・管理方法、バイオテクノロジーの基礎について学習する。	1前	30	1	△		○			○	○		○
○				グリーンコーディネート	観葉植物の扱いやそれらを用いた装飾法について学習する。	1前	30	1	△		○			△	○		○
○				ビジネスマナー	社会人として必要なビジネスマナーや履歴書の書き方、社会人基礎力等を習得する。	1通	60	2	○	△		○		○			
○				園芸流通	園芸業界の現状を実際の例に触れながら学習する。	1前	30	1	○			○		○	○		○
○				デザイン	デザインの構成について学習し、図面上での造形について理解させる。	1前	30	1	○	△		○		○			○
○				フラワーデザイン基礎	フラワーデザインの基礎を学習する。	1前	30	1	△		○			○			○
○				カラーコーディネート	色彩に関する基本的な知識や配色技法を学習する。	1前	15	0.5	○	△		○		○			○
○				造園基礎技術	造園に関わる基本的な技術を学習する。	1前	30	1	△		○			○			○
○				造園概論	造園史、日本庭園、西洋庭園の様式や特徴、造園材料や観察を通じて樹木の知識などを習得する。	1前	30	1	○					○			○
○				造園計画	図面の描き方、記号の表記方法、道具の使用方法、図面の読み取り方法等について学習する。	1後	90	3	○	△	△	○	△	○			○
○				造園施工	造園施工の基礎から応用まで必要な知識、技術を学習する。	1 2後通	240	8	△		○			○	○		○
○				造園管理	施工を行う上での必要経費の積算方法や、病虫害防除を含めた施工後の庭園の管理について学習し、実際に管理実習も行う。	1 2後通	240	8	△					○	○		○
○				樹木学	樹木の名称や、特徴、見分け方などを学習する。	1 2通前	60	2	○	△	△	○		○			○
○				装飾技術	寄せ植えなどの植物を使用した装飾技術について学習する。	1後	30	1	△		○	○	△	○			○
○				造園設計	図面作成を行いながら、設計について学習する。	2通	60	2	△	△	○	○	△	○			
○				造園材料	石や砂、竹、芝など造園に必要な材料の知識とそれらの扱いについて学習する。	2通	60	2	△		○			○			
○				環境緑化	都市緑化や生態系など造園に関わる環境や緑化技術について実習や調査を交えながら学習する。	2通	45	1.5	△		○	○	△	○	○		○
○				フィールドワーク	実際に校外での観察を行い、自然環境での植生や生態系について学習する。	2通	45	1.5			○		○	○			
○				測量	平板測量やトランシットについて学習する。	2前	60	2	△	△	○	○		○	○		
○				課題学習	学生各自がテーマを決めて学習する。	1 2後通	150	5	△	○		○		○	○		
○				インターンシップ	造園業界での現場体験を行う。	1 2後通	120	4			○		○	○			○
○				校外研修	海外研修や校外での研修を行う。	2通	60	2			○		○	○			○
○				管理実習	夏季休業中などに校内の植物の管理作業を行う。	1 2通通	135	4.5			○			○			○
○				校内行事	文化祭などの校内行事への取り組みを通じて、計画から完成までの一連の流れを習得する。	1 2通通	240	8			○	○		○			
○				選択	生け花、盆栽、野菜、などから2科目以上選択する。	1 2後後	60	2	△		○	○		○	○		○
○				資格取得	園芸装飾・造園・フラワー装飾・商品装飾展示の各技能士など、各自が受験する資格に応じ選択し、資格試験を受験する上で必要な知識、技術を習得する。	1 2通通	240	8	△	△	○	○		○	○		○
合計							2565	85.5									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
各学期毎に履修した科目について定期試験を実施する。定期試験において合格すると単位認定される。必修科目は全て、選択必修科目は年次ごとに所定の単位時間以上認定され、1年次では1,290単位時間以上、2年次では1,275単位時間以上（2年間で2,565単位時間以上）認定されることが卒業要件となる。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

●教育課程編成委員会

<花き生産コース、グリーンコーディネートコース 分科会>

氏名	所属	任期	構成
田澤 信二	(一社) 農業電化協会 代表理事 植物工場普及協会 名誉会長	H31. 4. 1. ~ R3. 3. 31.	①
蓮沼 清光	埼玉県インドアグリーン協会 前理事長 日彰商事(株) 代表取締役	H31. 4. 1. ~ R3. 3. 31.	①
島田 守	鴻巣花き(株) 代表取締役 (一社) 日本花き卸売市場協会 監事	H31. 4. 1. ~ R3. 3. 31.	③
吉田 誠	(有) 吉田園芸 代表取締役 (一社) 日本花き生産協会 理事 埼玉県花き園芸組合連合会 会長	H31. 4. 1. ~ R3. 3. 31.	③
伊東 政信	テクノ・ホルティ園芸専門学校 校長		—
村井 千里	同 名誉校長、教授		—
古谷 民子	同 教務部長		—
萩原 文雄	同 花き生産コース コース長、実習農場 農場長		—
伊藤 弘充	同 グリーンコーディネートコース コース長 実習農場 農場長代理		—

<野菜生産コース 分科会>

氏名	所属	任期	構成
田澤 信二	(一社) 農業電化協会 代表理事 植物工場普及協会 名誉会長	H31. 4. 1. ~ R3. 3. 31.	①
金沢 充	富士食品工業(株) 農産部長	H31. 4. 1. ~ R3. 3. 31.	③
伊東 政信	テクノ・ホルティ園芸専門学校 校長		—
村井 千里	同 名誉校長、教授		—
古谷 民子	同 教務部長		—
加藤 修一	同 野菜生産コース コース長、教授		—
滝沢 昌道	同 野菜生産コース、教授		—
萩原 文雄	同 花き生産コース コース長、実習農場 農場長		—

<フラワーコーディネーターコース 分科会>

氏名	所属	任期	構成
立川 瞳	(一社) 全国技能士会連合会 理事 (一社) 埼玉県技能士会連合会 会長 埼玉県職業能力開発協会 理事・審議員 埼玉県フラワー装飾技能士会 前会長	H31. 4. 1. ~ R3. 3. 31.	①
向江 正智	株式会社 日比谷花壇 人材開発部 チーフ	H31. 4. 1. ~ R3. 3. 31.	③
伊東 政信	テクノ・ホルティ園芸専門学校 校長		—
古谷 民子	同 教務部長		—
柿沼 真吾	同 フラワーコーディネーターコース コース長		—
市川 莉帆	同 フラワーコーディネーターコース 主任		—

<造園コース 分科会>

氏名	所属	任期	構成
高橋 康夫	(一社) 日本庭園協会 会長 (公財) 東京都公園協会 公園事業部 花と緑の市民カレッジ 事務局 元事務局長	H31. 4. 1. ~ R3. 3. 31.	①
由比 誠一郎	(株) 誠和造園 代表取締役 (一社) 日本庭園協会 東京都支部 委員	H31. 4. 1. ~ R3. 3. 31.	③
中山 秀一	(株) 水庭農園 環境技術部 部長 樹木医	H31. 4. 1. ~ R3. 3. 31.	③
伊東 政信	テクノ・ホルティ園芸専門学校 校長		—
古谷 民子	同 教務部長		—
鈴木 常美	同 造園コース コース長		—
細井 薫	同 造園コース 主任		—
阿部 亜沙美	同 造園コース		—

●進級・卒業の要件等（成績評価基準、卒業・修了の認定基準等）

- ① 1コマ=90分を半期15週で完結する授業を1単位とする
  - ② 進級・卒業のためには、各コース・専攻で定める単位を修得することが必要である
  - ③ 成績は、前期末と後期末の定期試験（筆答、口答、レポート、実技）の結果に加えて、出席状況や学習態度等を加味して評価する
  - ④ 成績評価で59点以下のものは評定が不可、単位は不認定となる
- ※ 定期試験の結果が60点に満たない場合は再試験となる
- ※ 出席時数が、各科目の授業時間数の3分の2に満たない場合は、定期試験を受験するために補講を受けなければならない
- ※ 年次毎に後期末の評価が終了した時点で10単位以上の不認定科目がある場合は留年もしくは卒業延期となる

評価	100～80点	79～70点	69～60点	59点以下
評定	優	良	可	不可
判定	合格			不合格
単位	認定			不認定

●学習の成果として取得を目指す資格と合格等の実績

資格名	級	平成 30 年度			平成 29 年度		
		受験者数	合格者数	内・金賞	受験者数	合格者数	内・金賞
園芸装飾技能士	2 級	9 名	9 名	2 名	22 名	17 名	1 名
	3 級	15 名	14 名	4 名	13 名	11 名	3 名
造園技能士	2 級	16 名	13 名	5 名	9 名	8 名	2 名
	3 級	4 名	4 名	3 名	14 名	13 名	5 名
フラワー装飾技能士	2 級	18 名	16 名	1 名	19 名	19 名	3 名
	3 級	17 名	17 名	1 名	14 名	14 名	1 名
商品装飾技能士	3 級	10 名	9 名	—	3 名	3 名	1 名
日本農業技術検定	2 級	15 名	5 名	—	19 名	10 名	—
	3 級	10 名	5 名	—	19 名	10 名	—
リテールマーケティング（販売士）	3 級	2 名	1 名	—	10 名	6 名	—
色彩検定	2 級	8 名	7 名	—	11 名	9 名	—
	3 級	8 名	7 名	—	9 名	8 名	—
土壌医検定	3 級	6 名	3 名	—			
POP 広告クリエイター	—	16 名	15 名	—			

・技能講習などにより取得を目指すもしくは取得できる資格

グリーンアドバイザー／グリーンマスター／小原流本科／小型車両系建設機械運転技能者  
玉掛技能者／小型移動式クレーン運転技能者／危険物取扱者 他

●卒業生数、卒業後の進路（進学者数・主な進学先、就職者数・主な就職先）

コース・専攻	平成 30 年度				平成 29 年度			
	卒業生	就職者	未定者	他業種 進学等	卒業生	就職者	未定者	他業種 進学等
花と野菜の農業ビジネスコース								
花き園芸専攻	7	7	—	—	15 名	13 名	2 名	—
野菜生産専攻	4	3	1		9 名	7 名	—	2 名
フラワーデザインコース	19	19	—	—	17 名	17 名	—	—
造園・環境緑化コース	19	17	—	2	7 名	6 名	—	1 名

<平成 30 年度卒業生の主な就職先>

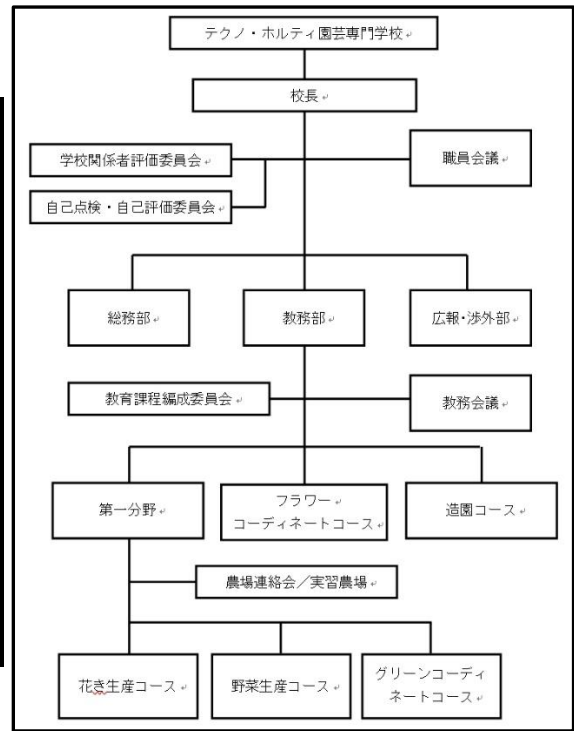
(株)花弘、(株)ユー花園、第一園芸(株)、オリエンタルフローリスト(株)、(株)花門フラワーゲート、(株)リベルテ、  
(株)岩城、(有)麻布植祐、(有)蓮や 鈴木造園、(有)名和造園土木、(株)オザキフラワパーク、富士食品工業(株)、  
(株)ミヨシグループ、東武緑地(株)、(株)ハルディン、(株)グリーンアンドアーツ、農事組合法人ハイフラワー、  
(有)清香園、(株)ヘリテージリゾート、農業組合法人ハイフラワー、(株)SK 花企画 他



③ 教職員

● 教職員数と組織

区分	専任	非常勤 嘱託等	非常勤 講師	計
校長	1	—	—	1
副校長	1	—	—	1
教員	7	4	—	10
助手	1	—	—	1
講師	—	—	46	49
事務職員	2	—	—	2
その他職員	—	—	8	8



● 教職員の専門性

区分	主な担当科目	専門性 有資格・業界との関係等
専任	園芸流通、ビジネスマナー	学校長
専任(嘱託)	園芸流通	副校長、広報・渉外部長
専任	花き育種・繁殖(バイオテクノロジー)、ビジネスマナー	教務部長、販売士1級、色彩検定1級、7Jファシリテータ、グリーンアドバイザー、ジョブカード作成アドバイザー
非常勤嘱託	園芸実習、育種・繁殖	名誉校長、元埼玉県園芸試験場長、園芸文化賞受賞 著作「切花栽培 技術マニュアル」ほか多数
非常勤嘱託	野菜生産実習	教授、元東京都農林水産部～農業改良普及員、農業専門技術員、普及所長など歴任 著作「軟弱野菜 - これからの技術と経営」ほか多数
非常勤嘱託	野菜生産実習、育種・繁殖、農業ビジネス	教授、農学博士、元東京都農総研 主任研究員
専任	園芸実習、花き生産技術、コース別課題学習	花き生産コース長、農場長、7Jファシリテータ、花き生産者
専任(嘱託)	植物生理、野菜生産実習、土壌肥料	野菜生産コース長、元埼玉県東松山農林振興センター 農業支援部長、農業改良普及員
専任	園芸装飾、園芸装飾実践、コース別課題学習	グリーンコーディネートコース長、教務次長、1級園芸装飾技能士、職業訓練指導員(園芸科)、7Jファシリテータ、元園芸生産社勤務
専任	フラワーデザイン、フラワービジネス	フラワーデザインコース長、教務主任、1級フラワー装飾技能士、職業訓練指導員(フラワー装飾)、7Jファシリテータ、元生花店勤務
常勤契約	造園実習(施工、管理)	造園コース長、1級造園技能士、1級造園施工管理技士、造園会社経営
専任(嘱託)	造園設計、コース別課題学習	教務次長、造園コース主任、グリーンアドバイザー、福祉住環境コーディネーター2級、屋上緑化コーディネーター、自然観察指導員、ガーデンデザイナー
専任	フラワーデザイン、フラワービジネス	教務主任、フラワーコーディネートコース担当、2級フラワー装飾技能士、元生花店勤務
専任	造園実習、コース別課題学習	教務係、2級造園技能士、2級園芸装飾技能士、グリーンアドバイザー、元フラワーパーク勤務
非常勤講師 または委託	園芸流通	農林水産省 経営局 就農女性課 課長補佐(総括及び総務班担当)
〃	園芸流通	公社) 園芸文化協会 理事・事務局長
〃	園芸流通	一社) 日本庭園協会 会長

非常勤講師 または委託	園芸流通	(株)サカタのタネ コーポレートコミュニケーション部長
〃	園芸流通	(株)誠文堂新光社月刊フローリスト デスク
〃	園芸流通	(株)花弘 営業企画室 ヒューマンリソース担当課長
〃	園芸流通	(株)京橋花き 常務取締役
〃	園芸流通	さいたまヨーロッパ野菜研究会 主幹
〃	園芸流通	東邦レオ(株) アーバングリーンチーム 営業統括リーダー
〃	園芸流通	生花店ジャルダンノスタルジック 経営
〃	園芸流通・フラワーデザイン	花屋「臘月」 代表
〃	園芸文化論	コンスタンス・スプライ・フลาวースクール サーティファイ ケイトコース修了
〃	病理害虫学	住友化学園芸(株)、元研究開発部長
〃	土壌肥料学	首都圏土壌医の会 会長
〃	花と緑の商品知識、フィールドワーク	財)埼玉県生態系保護協会 会員、ホームセンター 元園芸講 座講師
〃	フラワーデザイン基礎	フラワー装飾技能士1級、フラワー装飾科職業訓練指導員
〃	フラワーデザイン	埼玉県技能士連合会 会長、黄綬褒章受勲
〃	フラワーデザイン	(株)SK 花企画 代表取締役、2000JFTD ジャパンカップ優勝
〃	フラワーデザイン	フラワーデザインスクール秋桜花 代表
〃	フラワーデザイン	(株)日比谷花壇 人材開発部 チーフ
〃	フラワーデザイン	公社)日本フラワーデザイナー協会 名誉本部講師
〃	フラワーデザイン	はなのみせ花井生花 代表、フラワー装飾科職業訓練指導員
〃	フラワーデザイン	フラワーギフトむーあん 代表
〃	フラワーデザイン	ベリーブーケ 代表
〃	樹木学、造園管理	樹木医、元板橋区立熱帯環境植物館館長
〃	造園基礎・園芸流通	(有)金子園芸 代表取締役
〃	造園施工	(株)誠和造園 代表取締役
〃	造園管理、環境緑化	(株)水庭農園 環境技術部 部長、樹木医
〃	環境緑化	(有)ヴィリディフローラ 代表
〃	経営管理学	卸売市場政策研究所 代表
〃	デザイン、(資格)商品装飾展示	フリーランス(ショップディスプレイ)、商品装飾展示技能士1級
〃	カラーコーディネート、(資格)色彩検定	色彩検定1級、日本色彩研究所認定色彩指導者
〃	園芸装飾、(資格)園芸装飾技能士	おりかさ園芸 代表
〃	(資格)園芸装飾技能士	佐野園芸 代表、黄綬褒章受勲、現代の名工
〃	(資格)フラワー装飾技能士	フラワー装飾科職業訓練指導員、公社)日本フラワーデザイ ナー協会本部講師
〃	(資格)造園	造園技能士1級
〃	(資格)造園	造園技能士1級、造園会社経営
〃	(資格)NFD	フラワー装飾科職業訓練指導員、公社)日本フラワーデザイ ナー協会本部講師
〃	(資格)販売士	販売士1級、アップセルビジネス研究所 代表
〃	(選択)花木盆栽	日本盆栽教室連盟 師範
〃	(選択)生け花	華道小原流師範
〃	(選択)アロマセラピー	香草塾 主宰、アロマセラピスト
〃	(選択)ボタニカルアート	NHK文化センター植物画 講師
〃	(選択)CAD	東京都職業訓練校講師(CAD)、PAD 代表
〃	(資格)POP	日本POPサミット協会副会長、Rプラン 代表
〃	(選択)写真	植物写真家、園芸関連書籍での撮影経験多数

## ●教職員研修

### <基本方針>

テクノ・ホルティ園芸専門学校に所属する教職員は常に研鑽を怠らず、学生（もしくは保護者）の夢や希望を叶え、同時に学生に対して社会人・業界人として必要な知識や技能もしくはその素養を与え、さらに関連業界に対して有意な人材を輩出するよう努めなければならない。

### <平成 30 年度の実績>

研修日	研修・視察等の内容	実施団体・場所等
4月21日	ガーデニング、コンテナガーデン技術の習得と視察	日本フラワー&ガーデンショー
5月～9月	庭園技術連続基礎講座（全5回）	日本庭園協会
5月23日	バラ新品種の確認、新しい装飾技術の習得と情報収集	国際バラとガーデニングショー
6月～7月	専修学校教員研修会（1年次）	埼玉県専修学校各種学校協会
6月6日	ポインセチア新品種の確認及び生産技術講習会	田島園芸
6月13日	管理職の部下育成指導力養成研修会	埼玉県職業能力開発協会
7月13日	フューネラル装飾(葬儀の花)の現状と新しい技法の習得・視察	ユウ花園
7月15日	生産技術の習得と情報交換	鴨志田農園
7月19日	フラワー装飾用の新資材の確認、各種資材の使用方法を習得	松村工芸
7月20日	切花新品種の確認、主要生産者の情報収集	大田市場 花き部
7月28日	花卉懇談会セミナー	花卉懇談会（東京農大）
7月17日～20日	学生指導、教務事務など	新入教員研修
8月～12月	埼玉版「農業における生産工程管理」に関わる講習会	埼玉県農林振興センター
9月13日	安全運転管理者講習	埼玉県公安委員会
10月12日	施設園芸関連資材の確認、情報収集	農業ワールド
11月1日	イングリッシュガーデン、ガーデンセンター視察、情報収集	ジョイフル本田ほか
11月15日	花き・野菜新品種の確認、農場運営のノウハウ吸収	トキタ種苗大利根研究農場オープンデー
12月13日	留学生指導担当者研修会	職業教育・キャリア教育財団
1月18日	農業共済の現状及び収入保険に関する講習会	行田市花き園芸組合講演会
1月22日	スマート農業に関わる取組等講習会	農業技術革新工学研究センター
2月23日	花卉懇談会フォーラム	花卉懇談会（東京農大）
3月29日	専門学校教育研究会「専門学校の入試を考える」	東京都専修学校各種学校協会

<令和1年度の計画>

講習会やセミナーの受講、各種の展示会における新品種・新商品等の確認などを通じて、学生へ還元できる知識・技術等を習得する。

研修予定	研修・視察等の内容	実施団体・場所等
5月	ギャザリング講習会	鴻巣フラワーセンター
6月	ボサギク新品種の確認、生産技術講習会	黒田園芸
6月	土地利用型スマート農業研修会	農林振興センター
6～10月	庭園技術連続基礎講座	日本庭園協会
6、7月	専門学校新任教員研修(2年次)	埼玉県専修学校各種学校協会
7月	全国の農業法人との情報交換、新しい農法の習得	新農業者フェア
7月	フラワー装飾用の新資材の確認、各種資材使用方法の習得	松村工芸見本市
7月	花卉懇談会セミナー	花卉懇談会(東京農大)
9月	切花新品種の確認、主要生産者の情報収集	大田市場 花き部
9月	フューネラル装飾(葬儀の花)の現状と新技法の習得・視察	ユー花園
9月	花き、野菜新品種の確認	M&Bフローラ
10月	コンテナガーデン・ハンギングガーデンの技法の習得	日比谷公園ガーデニングショー
10月	園芸・農業・造園資材、新技法等の確認と習得	IFEX、次世代農業・ガーデン EXPO
11月	花き・野菜新品種の確認、栽培方法の習得	トキタ種苗
11月	花き研究シンポジウム	農林水産省(農研機構)
12月	マネージメント/コーチング/カウンセラー講習	埼玉県職業能力開発協会ほか
1月	全国の農業法人との情報交換、新しい農法の情報収集	新農業者フェア
2月	花卉懇談会フォーラム	花卉懇談会(東京農大)
2月	ラッピング・ギフト関連の新商材の確認、使用方法の習得	インターナショナルギフトショー
2月	花きの新品種・優秀品種の確認、生産技法の習得・情報収集	関東東海花の展覧会
随時	生産者や生花店、造園会社との積極的な情報交換	—

#### ④ キャリア教育・実践的職業教育

##### ●キャリア教育、就職支援への取組状況

個々の学生の希望を重視した指導とサポートを実施している。

1年次の前期（コース・専攻に所属する前）にクラス担任と面談し、その時点の希望等を確認。

1年次の後期からは、コース・専攻に分かれ専任教員と面談を重ねる。

過去の求人・就職企業の状況や卒業生・企業から得た情報を正確に伝え、同時にインターンシップを有効に活用することで、本人の希望とのミスマッチを防ぎ、確実な就職へ結び付けられるように指導している。

また、業界の現状や企業側が求める人材などの理解を深められるように、1年次の2月に企業からの職員派遣を得て就職ガイダンスを行っている。＜以下は、平成31年2月の実績＞

企業名	主な業務内容
トキタ種苗(株)	野菜の育種や種苗の生産販売、資材の開発・販売
(株)ユー花園	フューネラル装花、ブライダル装飾、フラワーショップ
第一園芸(株)	フラワーショップ、ブライダル装飾、造園・緑化事業
(株)花門フラワーゲート	造園、グリーンレンタル、フラワーショップ、ブライダル装飾
農業組合法人ハイフラワー	パンジー、ビオラをはじめとした多品種にわたる花苗の生産者
(株)ユニバーサル園芸社	観葉植物のレンタルを中心としたグリーンビジネス
(株)関東地区昔がえりの会	キャベツ、レタス、ネギ、ハクサイなどの野菜の生産
(有)金子園芸	自然を生かした庭造りにおける設計、施工、管理など
サンメンバーズ(株)	生花祭壇などを手掛ける「アイフラワー」を展開
(株)ゼントクコーポレーション	フラワーショップ「ブケ・オ!・ブケ」などを多店舗展開

さらに、ビジネスマナーの授業において応募書類の作成や面接対策をするのみならず、具体的な活動を始める時点で、書類作成・模擬面接・訪問マナーなどを個別に指導している。

##### ●実習・実技等の取組状況

本校では、開校当初より実習や演習に重点を置いて、即戦力たる人材養成を図っている。

このために、企業・団体から協力を得て、インターンシップによる現場の経験や、実践的な講師の派遣を受けることで教育効果を高めている。

##### 【企業との連携によるインターンシップ】

＜インターンシップの実施時期（各約2週間）＞

- ・1年次 11～12月
- ・2年次 5～6月、11～12月

＜インターンシップによる利点＞

- ・学校で学んだことが実践できると同時に、学校で学べないもしくは学ばないことを経験できる  
～ 社会人として働く練習の機会、社会人に必要な事柄を知る機会を提供できる
- ・将来の職場選択に有効  
～ どんな職場があるかを知る機会、失敗が少ない就職活動の基礎を提供できる

<主なインターンシップ企業>

(株)日比谷花壇、(株)ユー花園、第一園芸(株)、(株)花弘、(株)花門フラワーゲート、  
 (株)ゴトウ花店、タキイ種苗(株)、トキタ種苗(株)、(株)ミヨシ、(株)はこねフローリスト、  
 (株)テイクアンドギブ・ニーズ、(株)パークコーポレーション 青山フラワーマーケット、  
 (株)ゼントクコーポレーション ブケ・オ!・ブケ、埼玉北部市場、(有)吉田園芸、戸塚園芸、  
 (株)プラネット、(株)ジョイフル本田、片倉工業(株)マルベリーガーデン、富士食品工業(株)、  
 (株)足利フラワーリゾート あしかがフラワーパーク、みつばち造園、東部緑地(株)、西武造園(株)、  
 (有)石正園、(有)麻布植祐、(有)蓮や鈴木造園、(株)植繁、(株)八廣園、植彌加藤造園(株)<京都>、  
 (株)曾根造園<京都>、(株)京都造園<京都> ほか

\*これらの企業以外にもインターンシップの際に学生を送り出している

\*必ずしも毎年、希望者(実習者)がいるとは限らない

\*インターンシップに関する連携の契約書を交わしていない企業も一部掲載している

【企業との連携によって授業を実施】

契約を締結して授業への協力を得ている企業 (【 】内は主な授業科目名)

企業名	企業概要(説明)
有限会社東武フラワー 東武フラワーデザインアカデミー 【フラワーデザイン実践Ⅰ】	埼玉を拠点にして堅実に生花販売やウェディング装飾を行っている企業。代表は、現代の名工、黄綬褒章を受章。同時に、現在は(一社)全国技能士会連合会理事、(一社)埼玉県技能士会連合会会長などを兼務。精力的に後進の指導を行っている。
株式会社SK花企画 【フラワーデザイン実践Ⅰ】	軽井沢を拠点としてホテルウェディングやフラワーショップを運営している企業。代表は長野県・信州の名工、(一社)全国技能士会連合会認定の全技連マイスターを受章。全国のホテル装飾担当者や生花店経営者に精力的に技術指導を行っている。
フラワーデザインスクール秋桜花 【フラワーデザイン実践Ⅱ】	代表は日本のみならず、中国や韓国など海外においてデモンストレーションやコンテスト出場者の指導を行うと共に、フラワーショップ経営者への技術指導などを精力的に行っている。
株式会社水庭農園 【造園管理】【環境緑化】	苗木等の生産からスタートして創業80年超。官公庁、民間企業の庭園・公園・緑地・広場などの造園工事を行っている企業。
佐野園芸 【園芸装飾実践】【グリーンコーディネート実践】	埼玉を拠点として関東一円でインドアガーデンの普及に努めている企業。代表は、現代の名工、黄綬褒章を受章。社員を技能グランプリに出場させるなど後進の指導に熱心のうえ、植物の取扱いや装飾に優れている。
おりかさ園芸 【園芸装飾実践】【グリーンコーディネート実践】	代表は、園芸販売・装飾の企業を経た後に独立。埼玉県インドアグリーン協会教育部長、(一社)日本インドアグリーン協会技能グランプリ競技員であり、植物の生産や取扱い、装飾に優れている。

⑤ 様々な教育活動・教育環境

●学校行事への取組状況（平成30年度の実績）

<全校的もしくは学年単位での取り組み>

月度	行事	概要
4月	入学式	
	オリエンテーション	学習の心得や就職活動などについての講和
	防災訓練	避難訓練および埼玉県防災学習センターでの防災教育
5月	母の日の販売会	花や野菜、花束、アレンジメントなどを販売する
	国際バラとガーデニングショー	新品種や育種の歴史、見本庭園などを見学
	国内研修旅行（新入生、2泊3日）	それぞれの親睦を深め、業界への理解を促す。
	鴻巣花き市場見学	流通の要である市場の重要性を理解させる
6月	レクリエーション大会	親睦を深め、チームワークの大切さを理解させる
7月	古代蓮見学	日本の園芸資産として重要な行田蓮の素晴らしさを理解させる
8月	夏期農場実習	秋～冬の花や野菜の播種、灌水作業、除草・病害虫防除作業など
10月	文花祭	日頃の学習成果を発表する。（行田市教育委員会後援）
11月	タイ研修旅行（7泊8日）	熱帯植物・野菜の栽培・管理・流通・利用方法を学ぶ（希望者）
12月	クリスマス販売会	季節に合わせたリースやアレンジメントなどを販売する
2月	卒業・進級作品展	2年間、もしくは1年間の学習成果を発表する。
3月	卒業式	

<コース・専攻による見学・視察等>

月度	見学先・イベント名など	概要	対象
7月	新・農業人フェア	各地の農業法人等の情報収集、農水省の講演の聴講	VC
	夢の島 熱帯植物館	熱帯植物の品種や生育状況を見学	FC
	ユウ花園	フェーネラルフラワーの装飾技法等を見学・確認	FD
	松村工芸 見本市	新しい資材や各種資材の使用例を見学・確認	FD
	大田市場 花き部	国内最大の花き市場の仕組みやセリの状況などを見学	FD
9月	新・農業人フェア	各地の農業法人等の情報収集、農水省の講演の聴講	VC
10月	次世代農業 EXPO、農業ワールド	国内最大の花・緑・農業・造園等の見本市を見学、	FC、VC
11月	ジョイフル本田	ポタニックガーデンを見学、施工方法を確認	FC、LA
	京都研修旅行（2泊3日）	各時代の主要な日本庭園等を見学	LA
	トキタ種苗 オープンデー	花・野菜の新品種と生育状況等を見学	FC、VC
12月	鎌倉市内	各地に点在する個人庭、寺社仏閣などの庭園を見学	LA

表の「対象」に記載した記号の説明【（ ）内は、令和元年度からのコース名】

FC：花と野菜の農業ビジネスコース 花き園芸専攻（花き生産コース、グリーンコーディネートコース）

VC：花と野菜の農業ビジネスコース 野菜生産専攻（野菜生産コース）

FD：フラワーデザインコース（フラワーコーディネートコース）

LA：造園・環境緑化コース（造園コース）

（次ページに記載の表においても同様）

<コース・専攻による学習成果の発表等>

月度	イベント名など	概要	対象
5月	深谷花フェスタ	オリジナル箱庭部門、コンテナガーデン部門他へ出展 【金賞、深谷市長賞他を受賞】	FC
8月	岩鞍リゾートホテル	館内のフラワー装飾	FD
11月	技能五輪全国大会	フラワー装飾部門の競技会【金・銀・敢闘賞を受賞】	FD
1月	ベルヴィアイトピア	ブライダルフラワー装飾の実践	FD
2月	卒業・進級作品展内	フラワーデザイン競技会	FD
3月	春期農場実習	農場植物の繁殖・管理作業	FC・VC

<地域との連携によるコース・専攻の活動>

月度	施設・行事名など	概要	対象
7月	特別養護老人ホーム	観葉植物などによる館内の装飾：川里苑	FC、VC
10月	古代蓮会館	市民対象の園芸教室：行田市	FC、VC
	埼玉小学校 ふれあい学級	小学生対象の園芸教室：埼玉小学校	FC
11月	行田市商工祭	農場生産物の販売：行田商工会議所	FC、VC
	特別養護老人ホーム	観葉植物などによる館内の装飾：川里苑	FC、VC
		クリスマス・フラワー装飾：川里苑	FD
12月	埼玉県 夢のかけ橋	小学生対象のフラワーデザイン教室：埼玉県民生活部青少年課	FD
3月	特別養護老人ホーム	花壇植栽：おきな	FC
通年	古代蓮会館	農場生産花き類の販売：行田市	FC
通年	ホームセンター	農場生産野菜の販売：カインズホーム	VC

⑥ 学生の生活支援

●学生支援への取組状況

各コース・専攻の担当教員が座学や実習などを通じて個々の学生の出席状況や学習意欲などの把握に努めている。同時に、教務担当者が非常勤講師とのやり取りなどによって同様の情報を把握している。これらの情報は、少人数制の利点を生かして教職員間で共有し、同時に定例の教務会議で対策などの意見交換を行っている。

この際、状況によってはコース・専攻担当教員から保護者へ連絡し、保護者も交えた面談を実施。学習への取り組み姿勢の更生、不登校・退学の防止に結び付けている。また、保護者からの相談については随時応じることとして、保護者に対するケアも行えるように対応している。



⑦ 学生納付金・就学支援

● 学生納付金の取扱い（令和2年度入学生、金額、納入時期等）

学費（各コース・専攻共通）

	1年次			2年次		
	納入方法・期日			納入方法・期日		
	一括納入	分割納入		一括納入	分割納入	
		第1回納入	第2回納入		第1回納入	第2回納入
	合格通知受領から2週間以内	合格通知受領から2週間以内	入学前の3月31日 (1年次の7月15日※)	1年次 (2年次直前)の3月31日	1年次 (2年次直前)の3月31日	2年次の7月15日
入学金	100,000円	100,000円	—	—	—	—
授業料	950,000円	550,000円	400,000円	950,000円	550,000円	400,000円
実験・実習料	100,000円	—	100,000円	100,000円	—	100,000円
合計	1,050,000円	1,150,000円		1,150,000円	1,150,000円	

\*入学前の3月31日までに入学辞退を申し出た場合は、納入済みの学費の内、入学金を除いた授業料・実験実習料を返還する。

※分割納入・第2回納入の期日は「分納願」を提出した場合は、7月15日に変更する。

諸費用（教材費・教具費・花材費等）

学年	納入時期	花き生産コース	グリーン コーディネート コース	野菜生産コース	フラワー コーディネート コース	造園コース
1年次	5月	160,000円	170,000円	160,000円	220,000円	210,000円
	9月	60,000円	80,000円	60,000円	150,000円	80,000円
	計	220,000円	250,000円	220,000円	370,000円	290,000円
2年次	5月	90,000円	100,000円	90,000円	300,000円	90,000円
	9月	30,000円	30,000円	30,000円	40,000円	60,000円
	計	120,000円	130,000円	120,000円	340,000円	150,000円

\*各コース・専攻で徴収している金額のおおよその平均額を表示している。（参考金額としてご覧ください。）

\*それぞれ、必修科目に加えて、選択科目や資格取得科目の教材費等も含めている。

\*資格の検定料などは、個々の受検資格によって異なり、別途実施団体宛に実費を納入しなければならない。

●活用できる経済的支援措置の内容等（令和2年度入学生、奨学金、授業料減免等）

詳しくは、学生募集要項に記載。（2年進級時に適用する「給費生制度」は学生生活の手引きに記載）

<学園独自の制度>

◇特別奨学金（入学時に適用）

奨学区分		給付額	給付条件
資格取得	A	30,000 円	園芸装飾技能士 2 級、フラワー装飾技能士 2 級、造園技能士 2 級、商品装飾展示技能士 2 級、日本農業技術検定 1 級、測量士補、リテールマーケティング(販売士)1 級、NFD(日本フラワーデザイナー協会)フラワーデザイナー2 級、カラーコーディネーター1 級、色彩検定 1 級、屋上緑化コーディネーター、簿記実務検定 1 級(全商)、ビジネス文書実務検定 1 級(全商)、FFJ(日本学校農業クラブ連盟)・県(都・府)連会長職
	B	10,000 円	園芸装飾技能士 3 級、フラワー装飾技能士 3 級、造園技能士 3 級、商品装飾展示技能士 3 級、FFJ(日本学校農業クラブ連盟)検定特級、グリーンアドバイザー、NFD(日本フラワーデザイナー協会)フラワーデザイナー3 級、リテールマーケティング(販売士)2 級、カラーコーディネーター2 級、色彩検定 2 級、日本農業技術検定 2 級、簿記実務検定 2 級(全商)、ビジネス文書実務検定 2 級(全商)、情報処理検定(全商)、ビジネスコミュニケーション検定(全商)
全国大会	入賞	30,000 円	技能五輪全国大会入賞(フラワー装飾部門、造園部門)、技能グランプリ入賞(園芸装飾部門、フラワー装飾部門)、FFJ(日本学校農業クラブ連盟)主催の各種競技会において全国大会入賞
	出場	10,000 円	技能五輪全国大会出場(フラワー装飾部門、造園部門)、技能グランプリ出場(園芸装飾部門、フラワー装飾部門)、FFJ(日本学校農業クラブ連盟)主催の各種競技会において全国大会出場
AO 事前学習	レポート 評価	50,000 円	6 月エントリー者で、毎月のレポート評価が 80 点以上
		40,000 円	7 月エントリー者で、毎月のレポート評価が 80 点以上
		30,000 円	8 月エントリー者で、毎月のレポート評価が 80 点以上
		20,000 円	9 月エントリー者で、毎月のレポート評価が 80 点以上
	園芸常識 テスト	50,000 円	テスト結果が 91~100 点
		30,000 円	テスト結果が 81~90 点

\*該当するものが複数ある場合は、その合算金額を給付する

(ただし、同一資格の上位級を取得している場合の下位級、同一大会で入賞した場合の「出場」は対象外)

◇卒業生紹介制度（入学時に適用）

- ① 兄弟姉妹、保護者が本学の在校生・卒業生の場合：入学金相当額 100,000 円を奨学金として給付する
- ② 本学卒業生の紹介により入学した場合：50,000 円を奨学金として給付する

◇農場奨学生制度（入学年度のみに適用）

入学後に年間 50 日間の実習農場管理業務全般を行える方に 250,000 円を奨学金として給付する

(事前に面接を行い、採用の可否を決定する) \*テクノ・ホルティ園芸専門学校(埼玉校) 希望者

#### ◇給費生制度（2年進級時に適用）

人物・学業共に優秀で目的意識の確かなものに対して、経済的な負担を軽減するために奨学金を給付する「給費生制度」を設けている。

ただし、給付希望する場合は別途試験（専門科目、一般常識）を受け、認定されなければならない。

給付金額　　A 認定 50 万円、B 認定 25 万円、C 認定 10 万円

#### <公的な奨学金、給付金など>

##### ◇農業次世代人材投資事業（準備型）：農林水産省・全国農業会議所

次世代を担う農業者となることを志向する 45 歳未満の者に対して、就農前の研修を後押しする資金が交付される制度

- ・対象学生　　花と野菜の農業ビジネスコース　花き園芸専攻／野菜生産専攻
- ・交付決定　　事前に研修計画等を作成し、担当官（外部）との面接に通ることが必要
- ・交付金額　　最大 150 万円／年
- ・その他　　　一定の条件を満たせば返還不要

\*詳しくは、農林水産省のホームページを参照

[http://www.maff.go.jp/j/new\\_farmer/n\\_syunou/roudou.html](http://www.maff.go.jp/j/new_farmer/n_syunou/roudou.html)

##### ◇日本学生支援機構の奨学金

学業成績が優秀で、かつ経済的な理由から学費の支払いが困難な者に対して、選考のうえ奨学金が貸与される制度（卒業後に返還が必要）

- ・第一種奨学金（無利子）　　・第二種奨学金（有利子）　　・入学時特別増額貸与奨学金（有利子）

また、給付型（返還不要）の制度も設けられている

\*いずれも必要な事務作業等は学内で指導する

\*詳しくは、日本学生支援機構のホームページを参照 <https://www.jasso.go.jp/>

その他、上記を含め詳しくは募集要項および関係する組織・団体のホームページを参照のこと

#### ⑧ 学校の財務

- 資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表は、情報公開ページを参照してください。

#### ⑨ 学校評価

- 自己評価、学校関係者評価を踏まえた改善方策については、情報公開ページを参照してください。

⑩ その他

●学則（令和元年度）

テクノ・ホルティ園芸専門学校学則

第1章 組 織

(目的)

第1条 本校は、学校教育法及び私立学校法の規定に基づき、園芸に関する専門技術及び理論を習得させ、あわせて一般教養の向上を図ることを目的とする。

(名称)

第2条 本校は、テクノ・ホルティ園芸専門学校という。

(位置)

第3条 本校は、埼玉県行田市大字埼玉百塚通4758番1に置く。

第2章 課程及び学科、修業年限、定員並びに休業日等

(課程、学科、修業年限並びに定員等)

第4条 本校の課程、学科及び修業年限並びに定員は次のとおりとする。

課程名	学 科 名	修業年限	入学定員	学科定員	総 定 員	備 考
専門課程	園芸1類学科	2年	100名	200名	230名	
	キャリアデザイン学科	1年	30名	30名		

2. 本校の別科は、次のとおりとする。

科 名	修業期間	総 定 員	備 考
研究科	1年	80名	

(学年及び学期)

第5条 本校の学年は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

2. 専門課程の学期は次のとおりとする。

前 期 4月1日から9月30日まで

後 期 10月1日から3月31日まで

(休業日)

第6条 本校の休業日は次のとおりとする。

- 日曜日
- 国民の祝日に関する法律で休日とされる日
- 夏季休業日 8月1日から8月31日まで
- 冬季休業日 12月15日から1月14日まで
- 春季休業日 3月26日から4月7日まで
- 開校記念日 10月1日
- 埼玉県民の日 11月14日

第3章 教育課程及び授業時数及び職員組織

(教育課程及び授業時数)

第7条 本校の教育課程及び授業時数は、別表1-1から1-5のとおりとする。(始業及び終業の時刻)

第8条 本校の始業及び終業の時刻は、次のとおりとする。

- 専門課程は、9時から17時までとする。
- 別科は、9時から17時までとする。

(職員組織)

第9条 本校に、次の教職員を置く。

- 校長 1名
- 教 員 6名以上
- 事務職員 1名以上

2. 校長は、教務をつかさどり、所属職員を監督する。

(卒業)

第16条 本校所定の課程を修了した者には、学習評価のうえ卒業証書(別紙様式)を授与する。

(褒 賞)

第17条 成績優秀にして、他の模範となる者は、これを褒賞することがある。

(懲 戒)

第18条 次の各号の一に該当する者には、退学を命ずることがある。

- 品行不良で改善の見込みがないと認められる者
- 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- 正当な理由がなくて出席常でない者
- 学校の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

(入学金及び授業料、奨学金等)

第19条 本校の入学金、授業料等は、別表2のとおりとする。

- 授業料は、出席の有無にかかわらず、所定の期日までに納入しなければならない。但し、事情により分納を認めることもある。
- 入学前に前納された入学金、授業料、実験・実習料は、入学年の4月1日以降は返還しない。但し、入学年の3月31日までに入学辞退を申し出た場合は、原則として入学金を除く金員を返還する。
- 本校では、学習者の経済的な負担軽減を図るために別表3の奨学金制度・学費軽減処置制度を設けることとする。

(寄宿舎)

第20条 寄宿舎に関する事項は、校長が別に細則で定める。

(健康診断)

第21条 健康診断は、毎年1回、別に定めるところにより実施する。

附 則

この学則は、昭和63年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成元年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成2年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成4年4月1日から施行する。

但し、平成4年3月31日現在在学のものについては、なお従前のとおりとする。

第4章 入学、休学、退学並びに単位の認定、卒業及び賞罰

(入学資格)

第10条 本校の入学資格は、次のとおりとする。

専門課程は、高等学校若しくはこれに準ずる学校を卒業した者又は文部科学大臣の定めるところによりこれに準ずる学力があると認められた者とする。

(入学時期)

第11条 本校の入学時期は、次のとおりとする。

専門課程は毎年4月とする。

(入学手続)

第12条 本校の入学手続は、次のとおりとする。

- 本校に入学しようとする者は、本校の定める入学願書に必要事項を記載して、第19条に定める入学検定料を添えて指定する期日までに出席しなければならない。
- 前号の手続を終了した者に対して温考を行い、校長が入学を許可する。
- 本校に入学を許可された者は、入学許可の日から1週間以内に第19条の入学金を添え手続きをとりなければならない。

(休学及び復学)

第13条 学生が、疾病その他やむを得ない事由により、30日以上休学する場合は、診断書及びその事由を記し、校長の許可を受けなければならない。

2. 前項の者が復学しようとする場合は、届け出て復学することができる。

(退 学)

第14条 退学しようとする者は、その事由を記し、校長の許可を受けなければならない。

(学習の評価、単位の認定)

第15条 学習の評価は試験により行う。

- 履修した授業科目の出席時数が授業時数の3分の2以上あり、試験の結果が合格の場合は、当該授業科目の単位を認定する。
- 卒業に必要な全科目の単位を修得した者については卒業を認定する。
- 履修方法、学習の評価・評定、単位の認定に関し必要な事項は別に定める。

(卒業)

第16条 本校所定の課程を修了した者には、学習評価のうえ卒業証書(別紙様式)を授与する。

(褒 賞)

第17条 成績優秀にして、他の模範となる者は、これを褒賞することがある。

(懲 戒)

第18条 次の各号の一に該当する者には、退学を命ずることがある。

- 品行不良で改善の見込みがないと認められる者
- 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- 正当な理由がなくて出席常でない者
- 学校の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

(入学金及び授業料、奨学金等)

第19条 本校の入学金、授業料等は、別表2のとおりとする。

- 授業料は、出席の有無にかかわらず、所定の期日までに納入しなければならない。但し、事情により分納を認めることもある。
- 入学前に前納された入学金、授業料、実験・実習料は、入学年の4月1日以降は返還しない。但し、入学年の3月31日までに入学辞退を申し出た場合は、原則として入学金を除く金員を返還する。
- 本校では、学習者の経済的な負担軽減を図るために別表3の奨学金制度・学費軽減処置制度を設けることとする。

(寄宿舎)

第20条 寄宿舎に関する事項は、校長が別に細則で定める。

(健康診断)

第21条 健康診断は、毎年1回、別に定めるところにより実施する。

附 則

この学則は、昭和63年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成元年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成2年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成4年4月1日から施行する。

但し、平成4年3月31日現在在学のものについては、なお従前のとおりとする。

附 則  
この学期は、平成6年4月1日から施行する。  
但し、平成6年3月31日現在在学の者については、なお従前のとおりとする。

附 則  
この学期は、平成7年4月1日から施行する。  
但し、平成7年3月31日現在在学の者については、なお従前のとおりとする。

附 則  
この学期は、平成9年4月1日から施行する。  
但し、平成9年3月31日現在在学の者については、なお従前のとおりとする。

附 則  
この学期は、平成13年4月1日から施行する。  
但し、平成13年3月31日現在在学の者については、なお従前のとおりとする。  
但し、第4章第10条及び別添様式については、平成13年3月12日より施行する。

附 則  
この学期は、平成18年4月1日から施行する。  
但し、平成18年3月31日現在在学の者については、なお従前のとおりとする。

附 則  
この学期は、平成18年7月1日から施行する。

附 則  
この学期は、平成21年4月1日から施行する。  
但し、平成21年3月31日現在在学の者については、なお従前のとおりとする。

附 則  
この学期は、平成22年4月1日から施行する。  
但し、平成22年3月31日現在在学の者については、なお従前のとおりとする。

附 則  
この学期は、平成26年4月1日から施行する。  
但し、平成26年3月31日現在在学の者については、なお従前のとおりとする。

附 則  
この学期は、平成27年4月1日から施行する。  
但し、平成27年3月31日現在在学の者については、なお従前のとおりとする。

附 則  
この学期は、平成30年4月1日から施行する。  
但し、平成30年3月31日現在在学の者については、なお従前のとおりとする。

別表1-1 図表1 開学準備期間 花と野菜の農業ビジネスコース 花を産出専攻

科 目	1年	2年	計
農業文化論	30		30
花と緑の産品知識	60	30	90
分類・形態学	15		15
土壌肥科学	15		15
病理生理学	15		15
植物生理学	30		30
園芸実習	120	30	150
育種・繁殖	30		30
グリーンコーディネート	30		30
ビジネスマナー	60		60
園芸英語	30		30
デザイン	30		30
フラワーデザイン基礎	30		30
カラーコーディネート	15		15
造園基礎	30		30
園芸基礎	60		60
花と生産技術Ⅰ	45	60	105
花と生産技術Ⅱ	45	45	90
花と生産技術Ⅲ	45	30	75
必修科目	30	30	60
選択科目	15	15	30
施設管理	15	30	45
商品知識	30	60	90
園芸英語	30	60	90
切り花心利用	30		30
販売促進	15	15	30
花と育種・繁殖	30		30
生産加工実習	15	15	30
農業機械	15	15	30
経営管理Ⅰ	15	15	30
経営管理Ⅱ	30	30	60
経営管理Ⅲ	30	30	60
園芸実習・施設管理	15	15	30
新商品開発実習	30		30
英語学習	15		15
国際実習	15	30	45
インターンシップ	60	60	120
卒業研究		240	240
校外研修		60	60
管理実習	60	60	120
校内行事	120	120	240
小 計	1095	1140	2235
選択	30	30	60
実務取得	60	60	120
小 計	90	90	180
合 計	1185	1230	2415

\*選択科目(選択、実務取得)は、小計欄の総数以上の科目を選択することができます。

別表1-2 図表1 開学準備期間 花と野菜の農業ビジネスコース 野菜生産専攻

科 目	1年	2年	計
農業文化論	30		30
野菜生産学	90	30	120
分類・形態学	15		15
土壌肥科学	15		15
病理生理学	15		15
植物生理学	30		30
園芸実習	120	30	150
育種・繁殖	30		30
グリーンコーディネート	30		30
ビジネスマナー	60		60
園芸英語	30		30
デザイン	30		30
フラワーデザイン基礎	30		30
カラーコーディネート	15		15
造園基礎	30		30
野菜生産Ⅰ	120	60	180
野菜生産Ⅱ	30	240	270
野菜生産Ⅲ	30	15	45
販売促進	15	15	30
園芸英語	15	45	60
野菜加工論	15	15	30
生産加工実習	15	30	45
施設管理	15	15	30
園芸英語	30	45	75
施設管理	15	15	30
野菜栽培管理実習	30		30
英語学習	15		15
国際実習	15	30	45
インターンシップ	60	60	120
卒業研究		240	240
校外研修		60	60
管理実習	60	60	120
校内行事	120	120	240
小 計	1110	1200	2310
選択	30	30	60
実務取得	60	60	120
小 計	90	90	180
合 計	1200	1290	2490

\*選択科目(選択、実務取得)は、小計欄の総数以上の科目を選択することができます。

別表1-3 図表1 開学準備期間 フラワーデザインコース

科 目	1年	2年	計
農業文化論	30		30
花と緑の産品知識	60	30	90
分類・形態学	15		15
土壌肥科学	15		15
病理生理学	15		15
植物生理学	30		30
園芸実習	120	30	150
育種・繁殖	30		30
グリーンコーディネート	30		30
ビジネスマナー	75	30	105
園芸英語	30		30
フラワーデザイン基礎Ⅰ	30		30
デザイン	30		30
カラーコーディネート	15	30	45
造園基礎	30		30
フラワーデザイン基礎Ⅱ	60		60
フラワーデザイン応用		100	100
フラワーデザイン実習Ⅰ	60		60
フラワーデザイン実習Ⅱ		60	60
商品知識	30	45	75
ショップビジネス	30	90	120
資本金制作	30	120	150
空間装飾	45	120	165
ブライダルフラワー	30	45	75
フェーニルフラワー		30	30
課題学習	15		15
国際実習	15	30	45
インターンシップ	60	60	120
校外研修		60	60
管理実習	60	60	120
校内行事	120	120	240
小 計	1110	1140	2250
選択	30	30	60
実務取得	60	60	120
小 計	90	90	180
合 計	1200	1230	2430

\*選択科目(選択、実務取得)は、小計欄の総数以上の科目を選択することができます。

別表1-4 園芸1類学科教育課程

造園・環境緑化コース

科目	時数			
	1年	2年	計	
園芸文化論	30		30	
花と緑の商品知識	60	30	90	
分類・形態学	15		15	
土壌肥科学	15		15	
病理害虫学	15		15	
植物生理学	30		30	
園芸実習	120	30	150	
育種・繁殖	30		30	
グリーンコーディネーター	30		30	
ビジネスマナー	60		60	
園芸流通	30		30	
デザイン	30		30	
フラワードesign基礎	30		30	
カラーコーディネーター	15		15	
造園基礎技術	30		30	
造園概論	30		30	
造園計画	30		30	
造園施工	60	180	240	
造園管理	60	180	240	
樹木学	30	30	60	
装飾技術	30		30	
造園設計		60	60	
造園材料		50	50	
環境緑化		45	45	
フィールドワーク		45	45	
測量		60	60	
課題学習	30	120	150	
インターンシップ	60	60	120	
校外研修		60	60	
管理実習	90	45	135	
校内行事	120	120	240	
必修科目	小計	1140	1125	2265
選択科目	選択	30	30	60
資格取得		60	60	120
選択科目	小計	90	90	180
合計		1230	1215	2445

\* 選択科目(選択、資格取得)は、小計欄の時数以上の科目を選択することができます。

別表1-5 キャリアデザイン学科教育課程

必須・選択の別 科目名	園芸キャリア デザインコース	
	1年	計
植物基礎	80	80
園芸実習	240	240
実物鑑定	60	60
植物各論	30	30
商品制作	30	30
必修	80	80
基礎学力	90	90
PC実習	30	30
ビジネスマナー	80	80
コミュニケーション	30	30
就職支援	30	30
課題学習	90	90
小計	810	810
合計	810	810

別表2

課 程	専 門 課 程	
	園芸1類学科	キャリアデザイン学科
昼・夜の別	昼	昼
入学検定料	20,000円	20,000円
入学金	100,000円	100,000円
計	120,000円	120,000円
授業料	950,000円	750,000円
実験実習料	100,000円	100,000円
計	1,050,000円	850,000円

別表3

制度名	給付額	備考
特別奨学金制度	10,000円 ～ 50,000円	取得資格状況やコンテ スト出場等の状況など に応じて給付する
卒業生紹介制度	100,000円 または 50,000円	本学卒業生の親族ま たは、本学卒業生の 紹介によって入学し た者に給付する
農場奨学生制度	上限 250,000円	実習農場の管理全般 を行う者に給付する

別紙様式

卒業証書

右の者は本校園芸学専攻園芸造園課程1類一組  
卒業(2年の修業年限)を修了した。

卒業証書発給年月日(大) 年 月 日

本校入学生数 名  
本校卒業生数 名

校長 氏名

事務長 氏名

卒業証書

右の者は本校園芸学専攻園芸造園課程  
キャリアデザイン学科(2年)の  
卒業(2年の修業年限)を修了した。

卒業証書発給年月日(大) 年 月 日

本校入学生数 名  
本校卒業生数 名

校長 氏名

事務長 氏名

以上